

監視委員会評価部会報告書

第206報（令和5年度第3四半期）

茨 城 県 東 海 地 区

環境放射線監視委員会評価部会

ま え が き

本県の東海・大洗地区には、原子力発電所をはじめ、使用済核燃料再処理施設、核燃料加工施設、試験研究用原子炉及び核燃料使用施設など各種多様な施設が多数立地しています。

このため、県は東海・大洗地区における原子力施設周辺の環境放射線の監視を民主的に行うため、第三者監視機構として「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」を設置し、監視計画を定めています。この計画では、監視の目的を「原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保する」ために、

- ・周辺公衆の線量を推定評価する
- ・環境における放射性物質などの長期的変動を把握する
- ・原子力施設からの放射性物質の予期しない放出などの短期的変動を把握する

として、県、原子力事業所が分担して実施する監視・測定 of 項目・頻度や評価方法などを定めています。

関係機関は、この計画に基づき監視・測定を行い、四半期毎に監視委員会に報告を行っています。この報告について、監視委員会の下部組織である評価部会が詳細に検討を行い、その結果を踏まえ、監視委員会が評価を行い、監視季報としてとりまとめております。

季報の内容は次表のとおりです。

季 報	評 価 項 目
第1四半期	短期的変動調査結果（4～6月）
第2四半期	短期的変動調査結果（7～9月）、長期的変動調査結果（4～9月）
第3四半期	短期的変動調査結果（10～12月）
第4四半期	短期的変動調査結果（1～3月）、長期的変動調査結果（10～3月）、 年間線量の推定結果（4～3月）

本監視季報は、令和5年度第3四半期における評価項目について、令和7年 月 日に本委員会を開催して評価した結果です。

なお、福島第一原子力発電所事故による茨城県内全域における農畜水産物等への放射性物質の影響については、別に特別調査として報告を受けています。

茨城県東海地区環境放射線監視委員会

委員長（茨城県副知事） 飯 塚 博 之

目 次

I	監視結果の評価	1
II	監視結果の概要	3
II-1	短期的変動調査結果	3
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	9
III	測定結果	10
III-1	短期的変動調査結果	10
1	環境における測定結果	10
1-1	空間 γ 線量率測定結果	10
1-1-1	モニタリングステーション	10
1-1-2	モニタリングポスト	14
1-2	大気中放射能測定結果	22
1-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	22
1-2-2	降下塵中の放射性核種分析結果	25
1-3	農畜産物中の放射能測定結果	26
1-3-1	牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果(^{131}I)	26
1-4	海洋における放射能測定結果	26
1-4-1	海水中の放射性核種分析結果(^3H)	26
2	敷地内における測定結果	28
2-1	空間 γ 線量率測定結果	28
2-1-1	モニタリングステーション	28
2-1-2	モニタリングポスト	28
2-2	大気中放射能測定結果	29
2-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	29
3	放出源における測定結果	30
3-1	排気	30
3-1-1	排気中の放射性核種分析結果	30
3-1-2	排気中の全 β 放射能測定結果	41
3-1-3	排気中の全 α 放射能測定結果	44
3-2	排水	45
3-2-1	排水中の放射性核種分析結果	45
3-2-2	排水中の全 β 放射能測定結果	57
3-2-3	再処理施設排水中の放射性核種分析結果	60
3-2-4	再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果	65
3-2-5	排水中の全 γ 放射能連続測定結果	66

参考 1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	67
参考 2	主要施設運転状況	70
別表 1	環境試料の核種濃度検出限界	72
別表 2	排水中の全 β ・全 γ 検出限界	73
別表 3	排気の不検出分放出量算出方法	74
別表 4	排水の不検出分放出量算出方法	77
	〈用語・記号等の解説〉	79
	〈本報告書の解説〉	82

本報告書をご覧になる参考として

79 ページに、〈用語・記号等の解説〉

82 ページに、〈本報告書の解説〉

を掲載してあります。

I 監視結果の評価

茨城県環境放射線監視計画に基づく監視結果は下記のとおりである。

記

1 短期的変動調査結果（令和5年10月～令和5年12月）

空間ガンマ線量率（モニタリングステーション，モニタリングポスト）の測定結果が平常の変動幅の上限値を下回っていた。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により，放射性核種¹³⁷Csが大気塵埃から検出された。

Ⅱ 監視結果の概要

Ⅱ－１ 短期的変動調査結果

評価対象期間：令和５年10月から令和５年12月

短期的変動調査は、原子力施設から平常稼働時に放出される放射性物質のほかに、事故等により環境へ放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握するために行っている。

前四半期と同様に、大気塵埃の測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

１ 環境における測定結果

１－１ 空間ガンマ線量率測定結果（10～21ページ）

空間放射線（ガンマ線）の測定は、87地点のモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて行っている。評価の対象となっている月平均値は、31nGy/時～69nGy/時の間にあり、平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を下回っていた。

なお、1時間値の最大値（原科研測定の東海村亀下：10月1日）は110nGy/時であった。

一般環境（事業所周辺監視区域境界及び敷地内を除く）

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <21> （東海村，那珂市，常陸大宮市（根本））	34～64	110（亀下：10月1日）	80（亀下：11月）	3,600（豊岡：平成23年3月15日）
日立地区 <6> （日立市（久慈，大沼，留），常陸太田市（磯部，真弓，久米））	43～48	83（留：10月1日）	73（磯部：11月）	3,900（久慈：平成23年3月15日）
ひたちなか地区 <8> （ひたちなか市）	38～56	96（常陸那珂：10月1日）	78（馬渡：7月）	3,700（堀口：平成23年3月15日）
大洗地区 <15> （大洗町，銚田市，茨城町（広浦，海老沢，谷田部），水戸市（吉沢，大場））	41～61	79（造谷：10月1日）	71（荒地：12月）	3,100（広浦：平成23年3月15日）
比較対照地区 <1> （水戸市石川）	52～53	79（10月1日）	72（7月）	1,500（平成23年3月15日）
原電から10～30km圏内地区 <11> （日立市（十王，平和，中里），常陸太田市（里美，町田，松平），常陸大宮市（野上），茨城町（下飯沼），水戸市（鯉淵，城里町，笠間市））	31～49	80（鯉淵：10月1日）		

注）< >内は地点数

事業所周辺監視区域境界

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <14> （原子力機構原科研，原子力機構サイクル工研，原電）	注1) 47～64	100（サイクル工研MP-1，MP-8：10月1日）	77（サイクル工研MP-8：7月）	5,200（原科研MP-19：平成23年3月15日）
大洗地区 <11> （原子力機構大洗）	注1) 42～69	88（P-11：10月1日）	69（P-6：7月）	3,100（P-11，P-12：平成23年3月21日）

注）< >内は地点数

注1）松林等が存在している場所では，福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が蓄積しているため，空間ガンマ線量率が高くなる。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果（22～24ページ）

東海村村松など15地点（東海村6地点，ひたちなか市3地点，日立市1地点，銚田市1地点，茨城町1地点，大洗町2地点，水戸市1地点）において評価対象期間中に1か月ごとに採取したものを測定した結果，全て不検出であった。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値 ^{注)}	事故後の最高値
¹³⁷ Cs	<0.1	<0.1	3,800(東海村村松：平成23年3月)

注) 平成元年以降の最高値。なお、JCO臨界事故時のデータを除く。(以下、同様)

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果 (25ページ)

原子力機構原科研など3地点において評価対象期間中に1か月ごとに採取したものを測定した結果、全て不検出であった。

(検出状況)

(単位：Bq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
¹³⁷ Cs	<0.4	<0.4	27,000(原子力機構大洗構内：平成23年3月)

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果(¹³¹I) (26ページ)

那珂市豊喰など5地点における¹³¹Iの測定結果は、全て不検出であった。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果(³H) (26ページ)

久慈沖(A)など12海域における³Hの測定結果は、全て不検出であった。

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果 (28ページ)

評価対象としている月平均値は、東海地区(原子力機構サイクル工研)が42nGy/時、大洗地区(原子力機構大洗)が47nGy/時で、平常の変動幅(上限値：100nGy/時)を下回っていた。

なお、1時間値の最大値(原子力機構大洗測定のパ-8：10月)は、70nGy/時であった。

(検出状況)

(単位：nGy/時)

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値(平成22年度)	事故後1時間値の最大値
東海地区<1> (原子力機構サイクル工研)	42	67(10月1日)	52(7月)	4,000(平成23年3月15日)
大洗地区<1> (原子力機構大洗)	47	70(10月1日)	63(1月)	2,900(平成23年3月15日)

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果 (29ページ)

原子力機構原科研など3地点において評価対象期間中に1か月ごとに採取したものを測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、¹³⁷Csが1地点で1試料以上

検出された。

(検出状況)

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
¹³⁷ Cs	<0.1~0.42	<0.1	2,400 (原子力機構大洗：平成23年3月)

3 放出源における測定結果

3-1 排気中の放射能測定結果

排気中に含まれる放射性物質については、原子力事業者が放射性核種分析、全ベータ放射能測定、全アルファ放射能測定を行っている。

主要放出核種の放射性核種分析結果は、過去のレベル又はそれ以下であった。全ベータ放射能及び全アルファ放射能については不検出であった。

3-1-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）（30~39ページ）

測定対象の38排気筒のうち、今期に放出のなかった3排気筒を除いた原子力機構原科研JRR-2、原子力機構サイクル工研再処理施設の主排気筒など35排気筒において希ガス（⁴¹Ar, ⁸⁵Krなど）、³Hなど各施設の放出核種を測定したところ、下記の4排気筒で検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	施設名	核種名	3か月平均濃度	3か月平均濃度 過去最大値	参考管理目標値
原子力機構 原科研	JRR-3	希ガス	8.5×10^{-4}	4.1×10^{-3}	6.0×10^{-2}
	“	³ H	6.4×10^{-5}	5.3×10^{-4}	6.0×10^{-3}
	NSRR	希ガス	3.4×10^{-5}	6.6×10^{-4}	1.9×10^{-1}
	燃料試験施設	希ガス	5.2×10^{-3}	1.4×10^{-2}	7.8×10^{-2}
積水メディカル	第4排気筒	³ H	2.0×10^{-5}	2.2×10^{-5}	7.4×10^{-4}
		¹⁴ C	1.4×10^{-5}	2.3×10^{-5}	1.6×10^{-4}

注) 検出された核種のみ記載。

3-1-1' 放射性核種分析結果（その他検出された核種）（40ページ）

原電の東海発電所及び東海第二発電所で³Hが検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

3-1-2, 3-1-2' 全ベータ放射能測定結果（41~43ページ）

NDC材料試験棟、原子力機構原科研JRR-3など21排気筒において測定した結果、いずれも不検出であった。

3-1-3 全アルファ放射能測定結果（44ページ）

核管センター新分析棟など3排気筒における測定結果は、いずれも不検出であった。

3-2 排水中の放射能測定結果

排水中に含まれる放射性物質の測定は、放射性核種分析、全ベータ放射能測定、再処理施設排水中の放射性核種分析、再処理施設排水中の全ベータ放射能測定、排水中の全ガンマ放射能測定によって行っている。

放射性核種分析及び全ベータ放射能測定については、施設の平常稼働に伴う³Hなどの放射性核種や全ベータ放射能が検出されたが、法令値又は判断基準値を下回っていた。

3-2-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）（45～50ページ）

原子力事業者は、今期に放出のなかった量研機構那珂貯水槽、原電東海発電所及び三菱原燃排水貯水槽を除く、原子力機構原科研第1排水溝、原電東海第二発電所など13排水溝において⁶⁰Coなどの核種を測定している。下記の5排水溝で検出されたが、全て法令値（56ページ）以下であった。

（検出状況）

（単位：Bq/cm³）

測定者	排水溝名	核種名	3か月平均濃度	法令値	3か月平均濃度／法令値
原子力機構 原科研	第2排水溝	³ H	1.4×10^{-1}	6×10 注1)	1/430
		²² Na	5.4×10^{-6}	3×10^{-1}	1/56,000
		⁵⁴ Mn	4.7×10^{-6}	1	1/210,000
		⁶⁰ Co	3.2×10^{-5}	2×10^{-1}	1/6,300
		¹³⁷ Cs	3.1×10^{-5}	9×10^{-2}	1/2,900
原子力機構 大洗	北地区	³ H	3.0×10^{-4}	6×10 注1)	1/200,000
原電	東海第二発電所	³ H	1.5×10^{-3}	6×10 注1)	1/40,000
N D C	排水貯槽	⁶⁰ Co	2.6×10^{-4}	2×10^{-1}	1/770
		¹³⁷ Cs	7.2×10^{-5}	9×10^{-2}	1/1,300
積水メディカル	調整槽	³ H	2.1	2×10 注2)	1/9.5
		¹⁴ C	1.1	2	1/1.8

注) 検出された核種のみ記載

注1) 水としての法令値

注2) 有機物（メタンを除く）としての法令値

3-2-1' 放射性核種分析結果（主要放出核種）（51～54ページ）

県は、原子力機構原科研第1排水溝など12排水溝で測定している。原子力機構原科研第2排水溝など9排水溝で³H、¹⁴C、⁶⁰Co、¹³⁷Cs又はUの5核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

3-2-1'' 放射性核種分析結果（その他検出された核種）（55ページ）

原子力事業者が測定した13排水溝において、主要放出核種以外の核種として原子力機構原科研第2排水溝など2排水溝で、³H、⁹⁰Srの2核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

3-2-2, 3-2-2' 全ベータ放射能測定結果 (57~59ページ)

原子力事業者、県は、今期に放出のなかった量研機構那珂貯水槽を除く、原子力機構原科研第1排水溝、原子力機構サイクル工研第1排水溝など11排水溝において測定している。7排水溝で検出され、いずれの排水溝でも判断基準値を下回っていた。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果 (60~63ページ)

原子力機構サイクル工研が ^3H など14核種について分析した結果、 ^3H が検出されたが、法令値(64ページ)以下であった。

また、県が ^3H など9核種について測定した結果、 ^3H 、 ^{137}Cs 及び $\text{Pu}(\alpha)$ の3核種が検出されたが、いずれも法令値(64ページ)以下であった。

(検出状況)

(単位: MBq)

測定者	排水溝名	核種名	3か月放出量	法令値	3か月放出量／法令値
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	^3H	1.2×10^4	4.7×10^8	1/39,000

備考 県の測定では、 ^3H 、 ^{137}Cs 及び $\text{Pu}(\alpha)$ を検出。3か月間の最大値はそれぞれ $9.8\text{Bq}/\text{cm}^3$ 、 $3.9 \times 10^{-4}\text{Bq}/\text{cm}^3$ 及び $8.3 \times 10^{-5}\text{Bq}/\text{cm}^3$ であり、参考として法令(保安規定)に定める最大放出濃度(それぞれ $2.5 \times 10^4\text{Bq}/\text{cm}^3$ 、 $7.8 \times 10^{-1}\text{Bq}/\text{cm}^3$ 及び $3.0 \times 10^{-2}\text{Bq}/\text{cm}^3$)と比較すると、それぞれ1/2,600、1/2,000及び1/360であった。

3-2-4, 3-2-4' 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果 (65ページ)

原子力機構サイクル工研、県測定とも、不検出であった。

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果 (66ページ)

原子力機構原科研第2排水溝などの4排水溝で測定したところ、原子力機構原科研第2排水溝及び原電東海第二発電所で検出された。なお、原子力機構原科研第2排水溝では福島第一原子力発電所事故前の最高濃度を下回っており、原電東海第二発電所では福島第一原子力発電所事故前の最高濃度を上回ったが、運転停止中の降雨の影響による最高濃度^(注1)を下回っていた。

(検出状況)

排水溝名	今期の月最高濃度 (Bq/cm^3)	事故前の月最高濃度 (Bq/cm^3)
原子力機構原科研 第2排水溝	1.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}
原電東海第二発電所	1.2×10^{-2}	$< 1 \times 10^{-2}$

注1) 東日本大震災後、原電東海第二発電所は運転停止中であり、冷却水の排水量が大きく減っているため、降雨により排水に流入する天然放射性核種の影響が相対的に大きくなっている。運転停止中の最高濃度は、令和3年8月の降雨時に測定された $5.1 \times 10^{-2}\text{Bq}/\text{cm}^3$ である。

参考1

原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果（67～69ページ）

本調査は、原子力機構サイクル工研が、再処理施設の低レベル放射性廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するために毎月実施しているものであり、放出口を中心とした30地点で海水を採取し、全地点で全ベータ放射能及び ^3H 濃度、7地点で ^{137}Cs 濃度の測定を行っている。

調査の結果、放射性物質濃度の平均値は、全ベータ放射能について 0.043Bq/L 、 ^3H 及び ^{137}Cs について検出限界値未満であった。

（測定結果）

区 分	地点数	分 析 値
海水の全ベータ放射能	30	0.043Bq/L
海水中の ^3H 分析	30	不検出
海水中の ^{137}Cs 分析	7	不検出

Ⅲ 測定結果

Ⅲ-1 短期的変動調査結果

1 環境における測定結果

1-1 空間 γ 線量率測定結果

1-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
県 施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	東海村石神	最大	77	68	62	
		平均	49	49	49	49
	" 豊岡	最大	91	81	68	
		平均	55	55	55	55
	" 舟石川	最大	95	82	72	
		平均	58	58	59	58
	" 押延	最大	83	72	62	
		平均	49	49	49	49
	" 村松	最大	87	74	68	
		平均	55	55	55	55
	" 三菱原燃	最大	74	61	59	
		平均	45	45	45	45
	" 原燃工	最大	69	57	53	
		平均	45	46	46	46
	那珂市横堀	最大	79	66	61	
		平均	48	49	48	48
	" 門部	最大	72	53	56	
		平均	40	40	40	40
	" 菅谷	最大	85	75	70	
		平均	59	59	59	59
" 本米崎	最大	70	59	56		
	平均	42	42	42	42	
" 額田	最大	64	55	54		
	平均	43	43	43	43	
" 鴻巣	最大	67	49	50		
	平均	34	34	34	34	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	那珂市後台	最大	74	61	54	
		平均	41	42	41	41
	" 瓜連	最大	68	57	60	
		平均	44	44	44	44
	ひたちなか市馬渡	最大	89	70	65	
		平均	54	54	53	54
	" 常陸那珂	最大	96 (注1)	74	68	
		平均	56	56	56	56
	" 阿字ヶ浦	最大	86	69	64	
		平均	53	53	53	53
	" 堀口	最大	90	71	63	
		平均	53	53	53	53
	" 佐和	最大	71	66	55	
		平均	43	43	43	43
	" 柳沢	最大	71	59	57	
		平均	46	46	46	46
	日立市久慈	最大	80	68	60	
		平均	48	48	48	48
	" 大沼	最大	73	64	59	
		平均	47	48	47	47
	" 十王	最大	59	52	50	
		平均	38	38	38	38
	" 平和	最大	65	55	51	
		平均	40	40	40	40
	" 中里	最大	61	48	54	
		平均	37	37	37	37
	常陸太田市磯部	最大	82	64	66	
		平均	48	48	48	48
	" 真弓	最大	75	57	56	
		平均	43	43	43	43
" 久米	最大	62	56	56		
	平均	43	43	43	43	
" 里美	最大	66	62	68		
	平均	38	38	38	38	
" 町田	最大	75	68	72		
	平均	49	49	49	49	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	常陸太田市 松平	最大	57	49	49	
		平均	31	31	31	31
	常陸大宮市 根本	最大	66	51	55	
		平均	41	41	41	41
	" 野上	最大	72	62	67	
		平均	43	44	44	44
	大洗町 大貫	最大	72	59	67	
		平均	49	48	49	49
	" 磯浜	最大	60	55	59	
		平均	45	45	45	45
	鉾田市 造谷	最大	79 (注2)	71	72	
		平均	61	61	61	61
	" 荒地	最大	71	64	68	
		平均	52	52	52	52
	" 田崎	最大	66	56	56	
		平均	45	44	44	44
	" 縦山	最大	65	71	59	
		平均	47	47	45	46
	" 上富田	最大	64	56	61	
		平均	46	46	46	46
	" 徳宿	最大	59	58	57	
		平均	43	43	44	43
	茨城町 広浦	最大	70	59	64	
		平均	48	47	47	47
	" 海老沢	最大	71	60	64	
		平均	50	51	51	51
	" 谷田部	最大	70	56	61	
		平均	47	47	47	47
	" 下飯沼	最大	68	52	57	
		平均	40	40	40	40
水戸市 吉沢	最大	62	51	51		
	平均	41	41	41	41	
" 大場	最大	78	63	66		
	平均	52	52	52	52	
" 石川	最大	79 (注3)	67	63		
	平均	52	53	53	53	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
県	水戸市鯉淵	最大	80 (注4)	55	57	
		平均	43	43	43	43
	城里町石塚	最大	72	55	60	
		平均	44	44	44	44
	笠間市大橋	最大	75	57	61	
		平均	48	48	48	48
原子力機構原科研	東海村須和間	最大	83	71	62	
		平均	47	47	47	47
	" 亀下	最大	110 (注5)	96	80	
		平均	64	64	64	64
原子力機構サイクル工研	" 舟石川	最大	68	66	52	
		平均	40	41	40	40
	ひたちなか市長砂	最大	76	60	53	
		平均	42	42	42	42
	" 高野	最大	68	57	51	
		平均	38	39	38	38
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	最大	76	69	69	
		平均	52	52	52	52
	周辺監視区域境界 (P-6)	最大	67	61	63	
		平均	47	48	48	48
原電	東海村船場	最大	77	69	58	
		平均	46	46	46	46
	日立市留	最大	83 (注6)	73	59	
		平均	48	48	47	48

(注) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

樹木等が多く存在している場所では、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が蓄積しているため、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注1) ひたちなか地区の一般環境における1時間値の最大値96nGy/時(県測定：ひたちなか市常陸那珂)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注2) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値79nGy/時(県測定：鉾田市造谷)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注3) 比較対照地点における1時間値の最大値79nGy/時(県測定：水戸市石川)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注4) 原電から10~30km圏内地区における1時間値の最大値80nGy/時(県測定：水戸市鯉淵)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注5) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値110nGy/時(原子力機構原科研測定：東海村亀下)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注6) 日立地区の一般環境における1時間値の最大値83nGy/時(原電測定：日立市留)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

1-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	最大	79	71	66	
		平均	58	58	58	58
	" " (MP-16)	最大	87	67	63	
		平均	48	47	47	47
	" " (MP-17)	最大	83	73	64	
		平均	51	51	51	51
	" " (MP-18)	最大	86	82	74	
		平均	63	62	62	62
	" " (MP-19)	最大	91	81	71	
		平均	59	59	59	59
原子力機構サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-1)	最大	100 (注1)	77	74	
		平均	63	60	60	61
	" " (MP-6)	最大	94	74	68	
		平均	57	56	56	56
	" " (ST-5)	最大	94	78	71	
		平均	58	58	58	58
	" " (MP-7)	最大	95	85	76	
		平均	64	64	63	64
	" " (MP-8)	最大	100 (注1)	83	76	
		平均	64	64	64	64
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-1)	最大	76	70	66	
		平均	50	51	50	50
	大洗町成田 (P-3)	最大	72	65	66	
		平均	49	50	49	49
	" " (P-4)	最大	61	55	56	
		平均	48	48	48	48
	周辺監視区域境界 (P-5)	最大	65	58	61	
		平均	46	46	46	46
	" " (P-7)	最大	84	78	78	
		平均	60	61	61	61

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-11)	最大	88 (注2)	85	81	
		平均	68	69	69	69
	" (P-12)	最大	79	78	74	
		平均	65	65	65	65
	" (P-13)	最大	66	59	55	
		平均	48	47	47	47
	" (P-14)	最大	81	73	68	
		平均	54	54	54	54
	" (P-15)	最大	71	64	61	
		平均	49	49	49	49
	" (P-16)	最大	61	58	55	
		平均	42	42	42	42
原電	周辺監視区域境界 (A)	最大	77	73	61	
		平均	50	50	50	50
	" (B)	最大	86	76	65	
		平均	53	52	52	52
	" (C)	最大	86	77	64	
		平均	53	53	52	53
	" (D)	最大	91	78	66	
		平均	55	54	53	54
東海村豊岡	最大	86	76	64		
	平均	53	52	52	52	

(注) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

樹木等が多く存在している場所では、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が蓄積しているため、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある。

(注1) 東海地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値100nGy/時(原子力機構サイクル工研測定:MP-1及びMP-8)が観測されたのは、10月1日18時であり、降雨の影響である。

(注2) 大洗地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値88nGy/時(原子力機構大洗測定:P-11(10月1日18時))が観測されたのは、降雨の影響である。

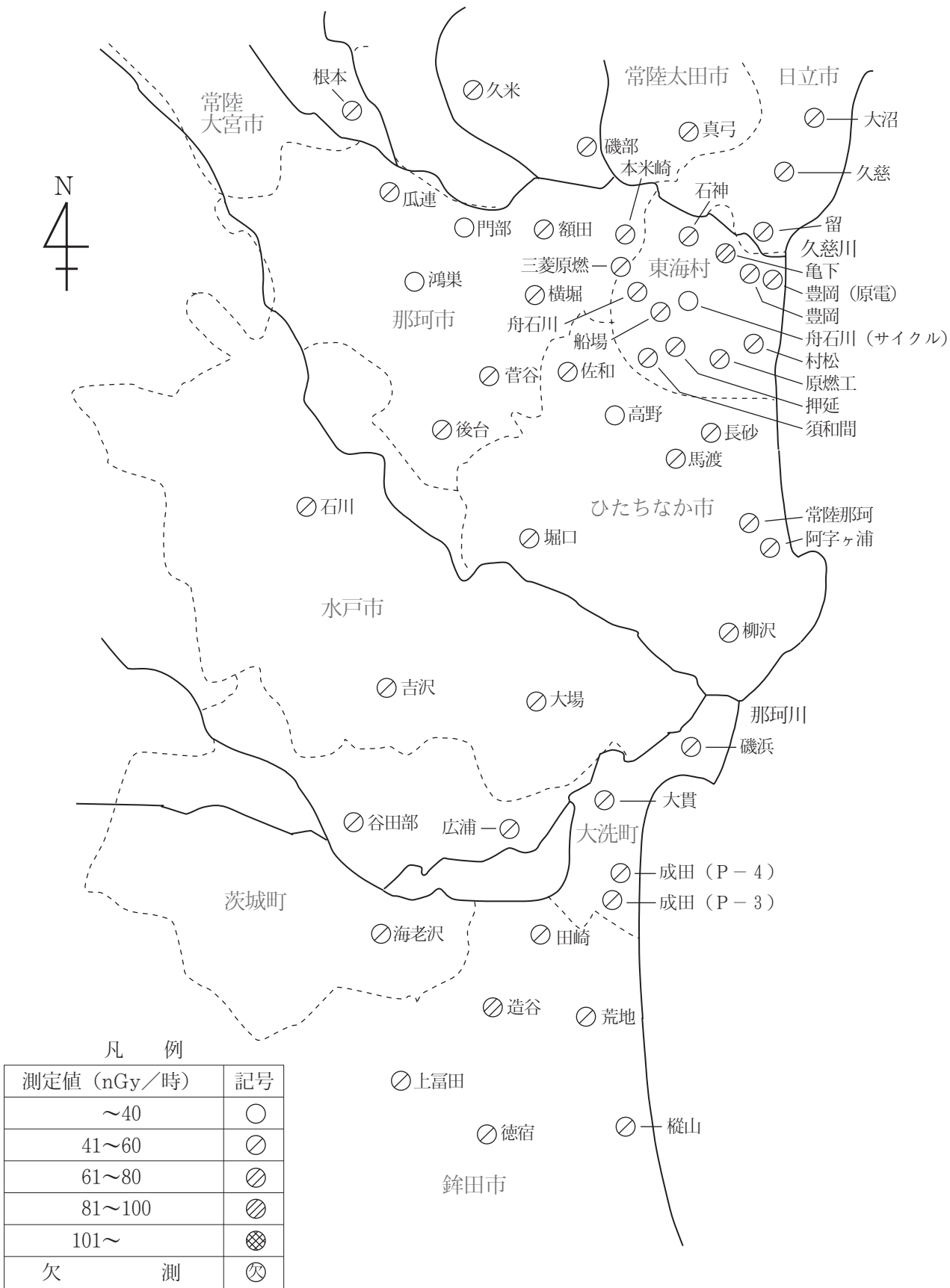


図1 原電又は原子力機構大洗から10km圏内の一般環境における空間 γ 線量率測定結果（3か月平均値）
（事業所周辺監視区域境界を除く）

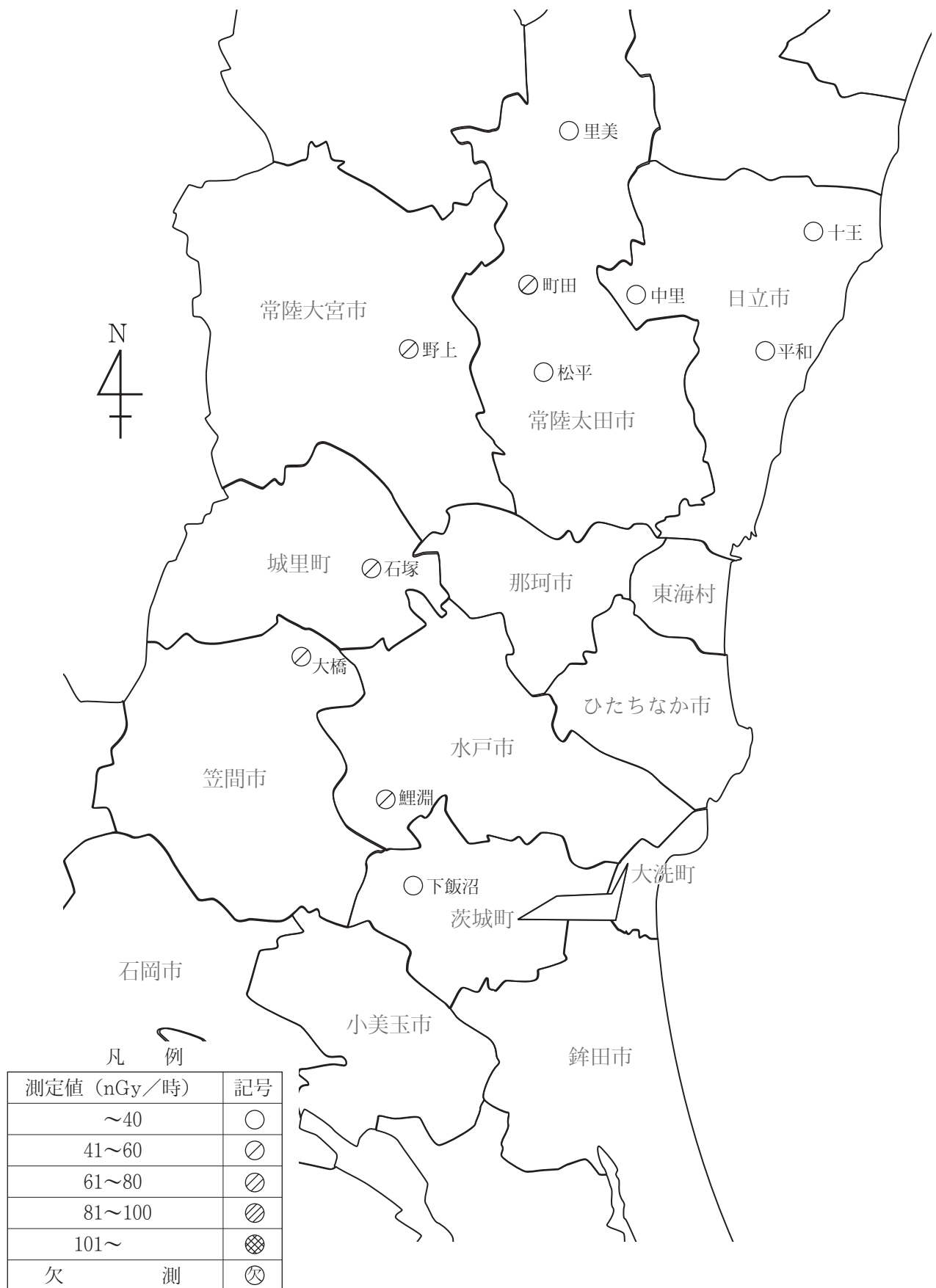


図2 原電から10~30km圏内地区における空間 γ 線量率測定結果(3か月平均値)

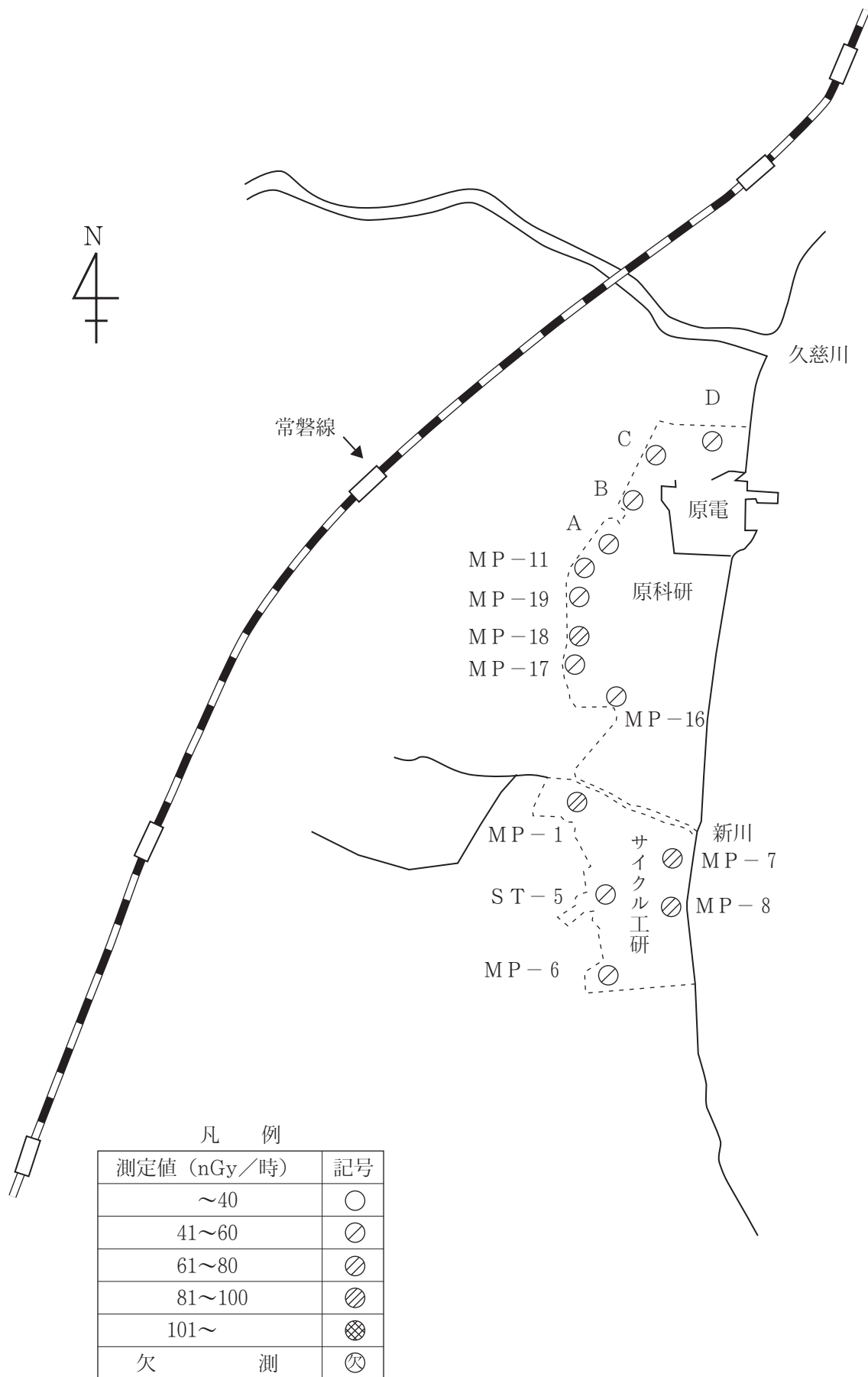
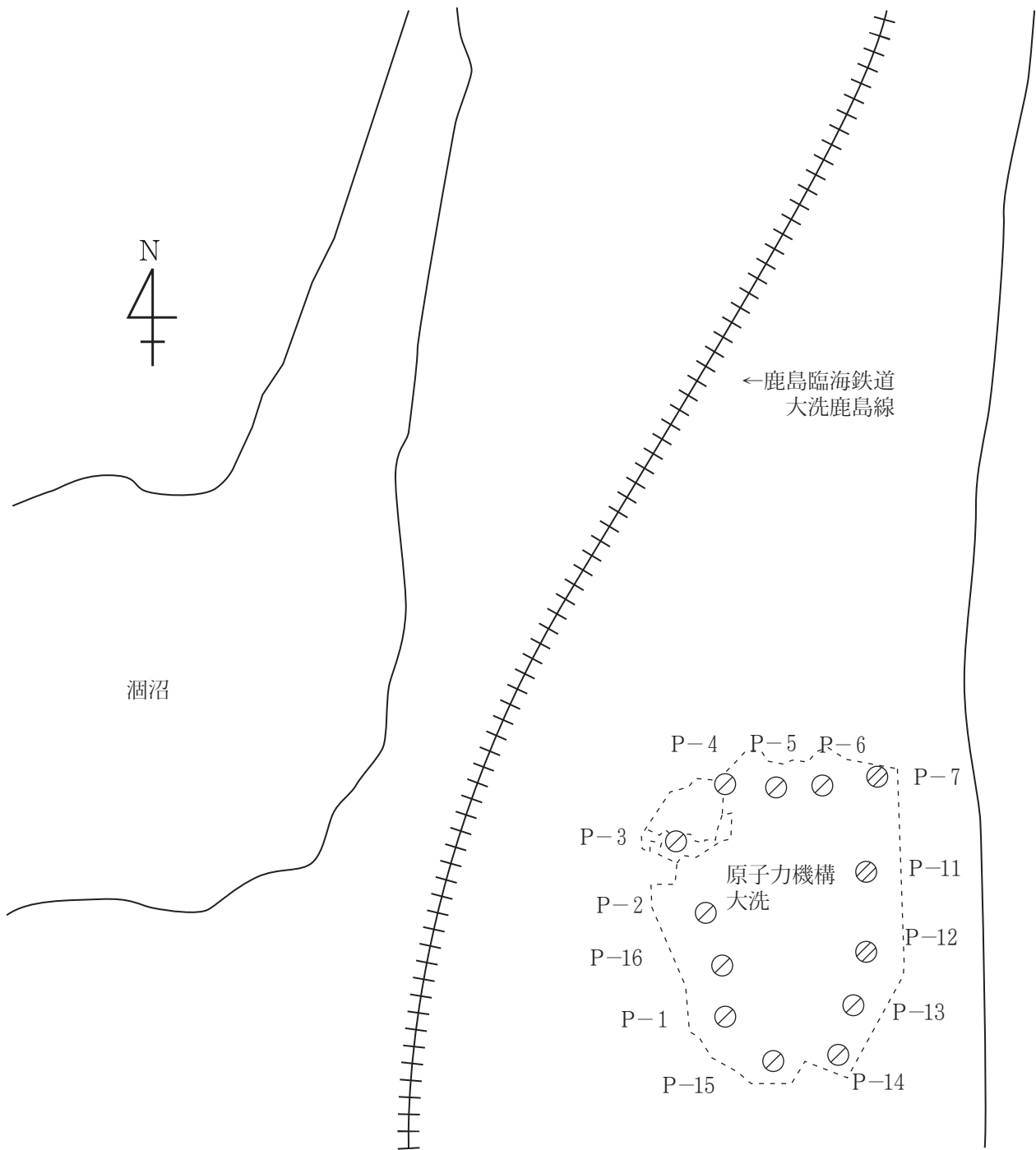


図3 東海地区事業所周辺監視区域境界における空間 γ 線量率測定結果(3か月平均値)



凡 例

測定値 (nGy/時)	記号
~40	○
41~60	⊙
61~80	⊗
81~100	⊘
101~	⊙
欠 測	⊕

図4 大洗地区事業所周辺監視区域境界における空間 γ 線量率測定結果(3か月平均値)

令和5年度第3四半期におけるモニタリングステーション, モニタリング
ポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

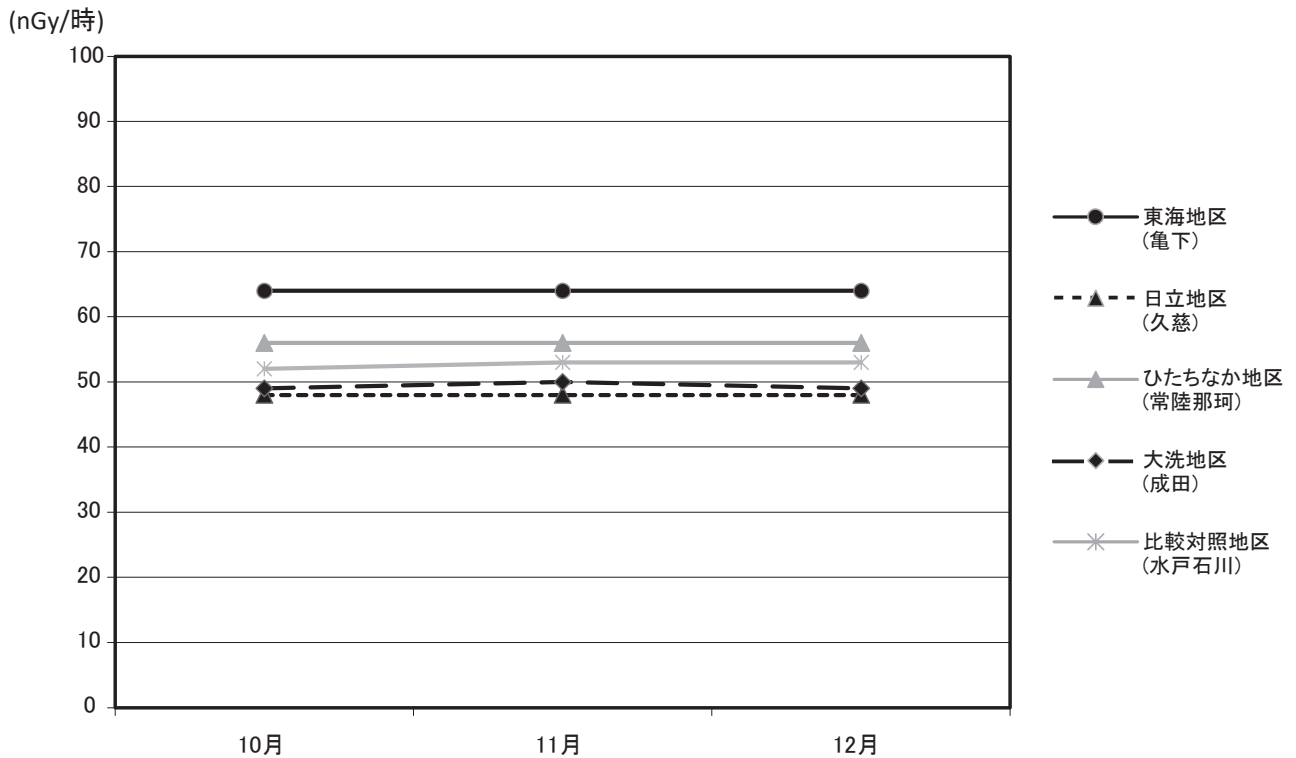


図1 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化

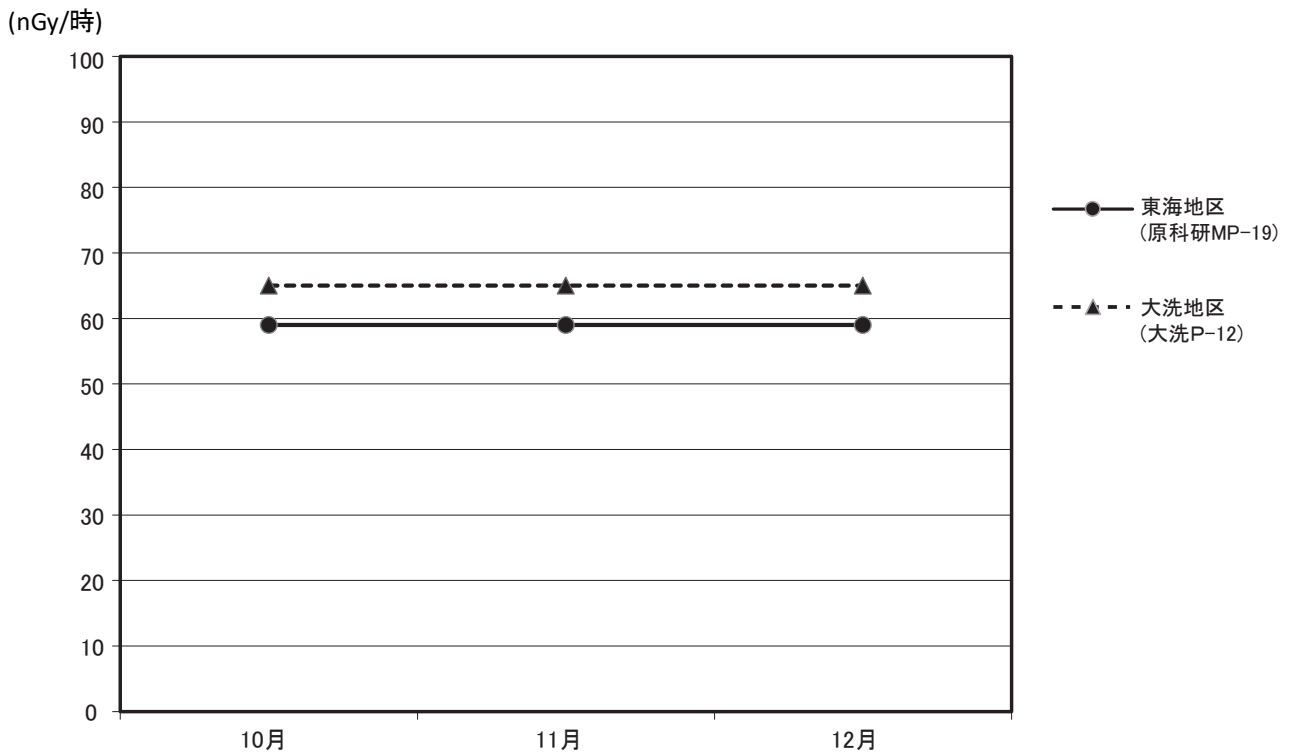
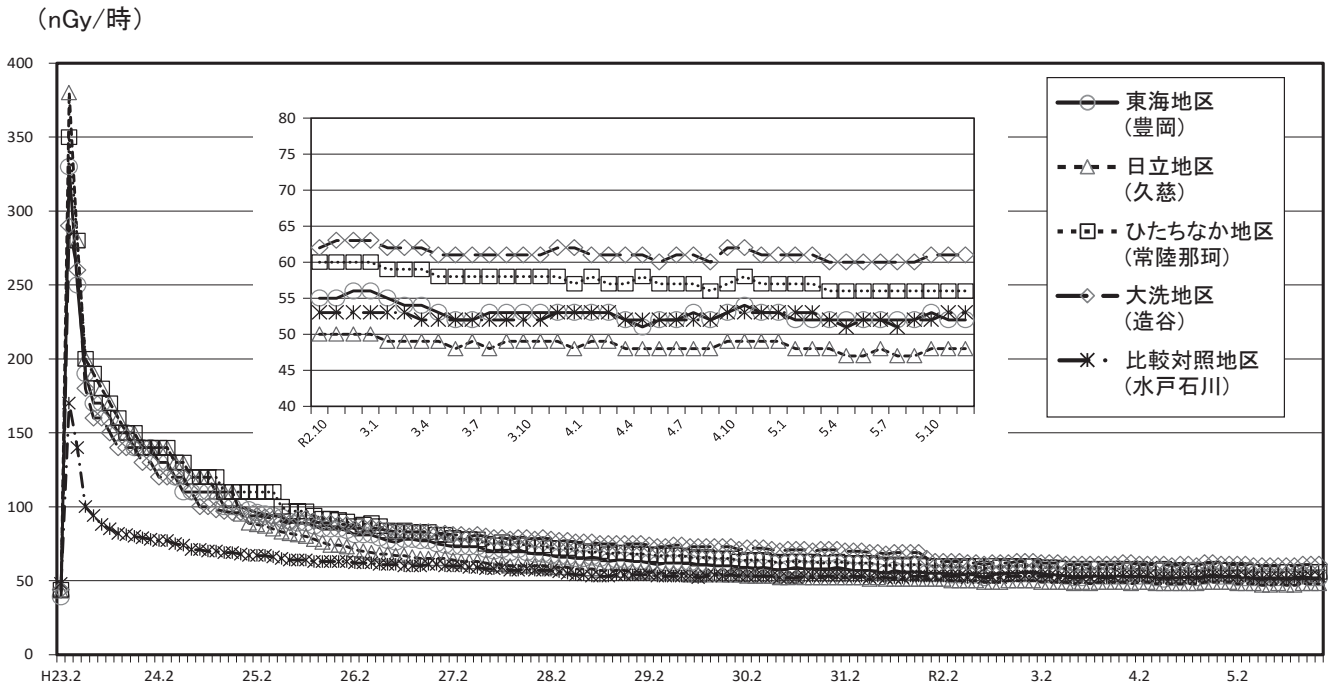
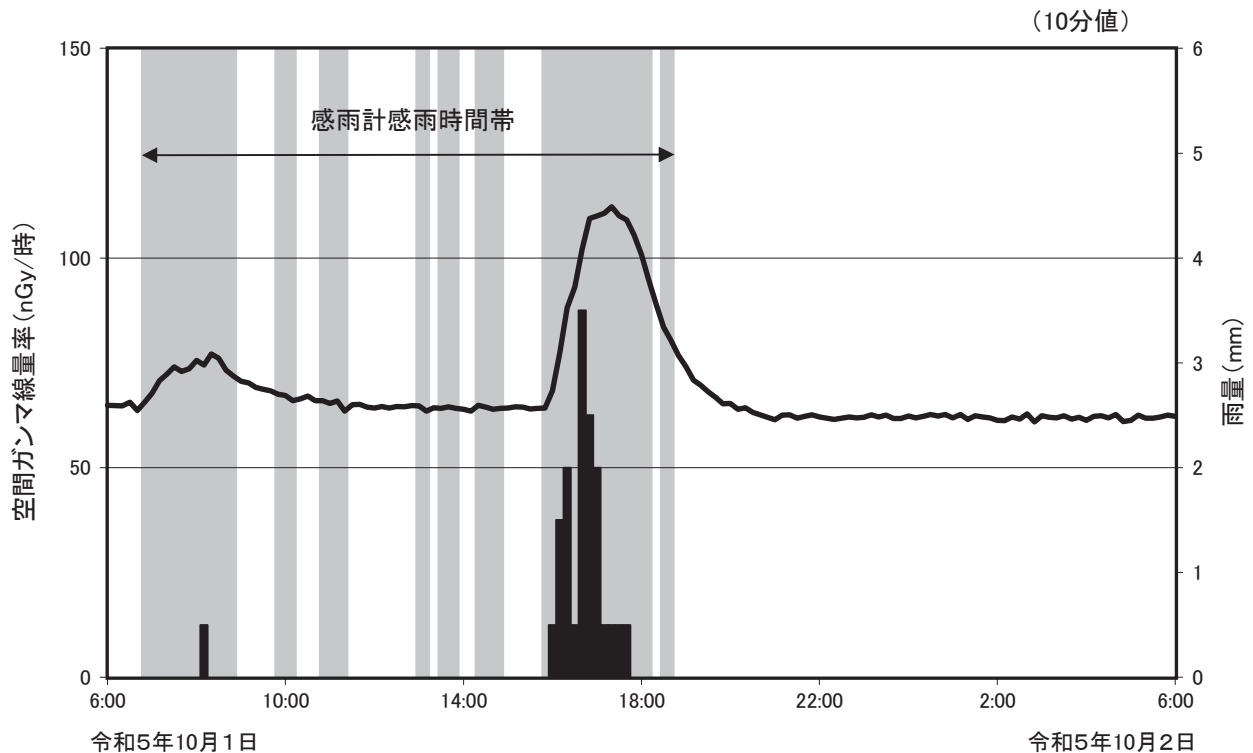


図2 空間ガンマ線量率測定結果の事業所周辺監視区域境界の経月変化

空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化
 (福島第一原子力発電所事故前(平成23年2月)から令和5年12月まで)



今期の測定の中で降雨によって最大値が観測された局における空間線量率の時系列
 (原子力機構原科研亀下)



(注)
 当該グラフにおける空間ガンマ線量率の上昇の原因は降雨によるもの。
 降雨により空間線量率が上昇するのは、自然放射性核種(ラドンとトリウムから生まれた核種)が雨により地表に落下するためであり、それらの核種の半減期は短いことから、雨が止んでから短時間で線量率は降雨前の水準に戻る。

1-2 大気中放射能測定結果

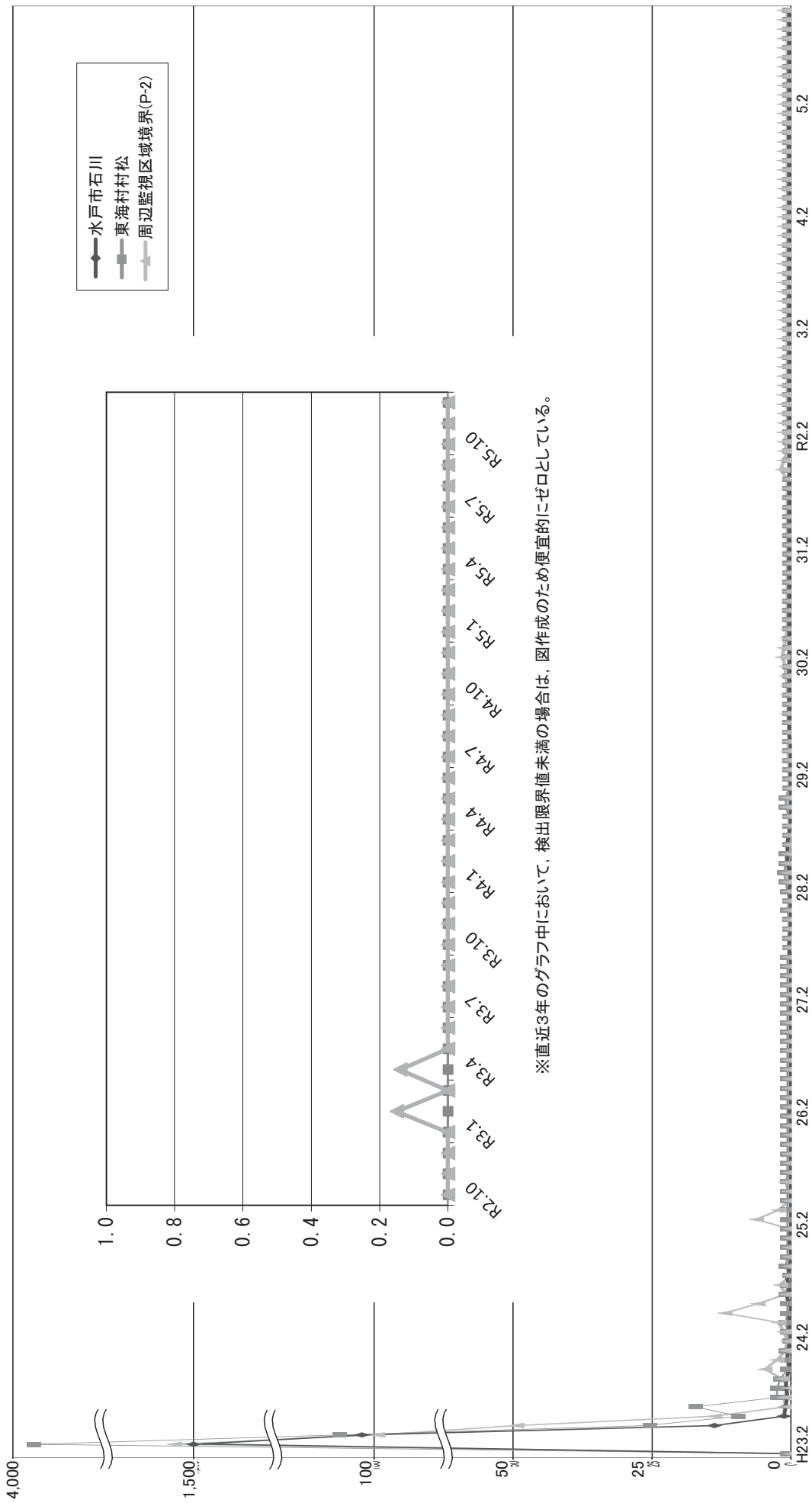
1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							Pu
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	
県	(注1) 水戸市 石川	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 村松	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	ひたちなか市 常陸那珂	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	茨城町 広浦	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×	
銚田市 造谷	10. 1~11. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×		
	12. 1~ 1. 1	×	×	×	×	×	×	×		
原子力 機構 原科研	周辺監視区域境界 (MS-2)	10. 3~10.31	×	×	×	×	×	×	×	
		10.31~11.28	×	×	×	×	×	×	×	
		11.28~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 須和間	10. 3~10.31	×	×	×	×	×	×	×	
		10.31~11.28	×	×	×	×	×	×	×	
		11.28~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×	
	" 亀下	10. 3~10.31	×	×	×	×	×	×	×	
		10.31~11.28	×	×	×	×	×	×	×	
		11.28~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×	

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力 機構 サイ クル 工研	東海村 舟石川	9.25~10.24	×	×	×	×	×	×	×	
		10.24~11.21	×	×	×	×	×	×	×	×
		11.21~12.22	×	×	×	×	×	×	×	×
	ひたちなか市長砂	9.25~10.24	×	×	×	×	×	×	×	
		10.24~11.21	×	×	×	×	×	×	×	×
		11.21~12.22	×	×	×	×	×	×	×	×
	" 高野	9.25~10.24	×	×	×	×	×	×	×	
		10.24~11.21	×	×	×	×	×	×	×	×
		11.21~12.22	×	×	×	×	×	×	×	×
原子力 機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	10.2~11.1	×	×	×	×	×	×	×	
		11.1~12.1	×	×	×	×	×	×	×	
		12.1~1.4	×	×	×	×	×	×	×	
	周辺監視区域境界 (P-6)	10.2~11.1	×	×	×	×	×	×	×	
		11.1~12.1	×	×	×	×	×	×	×	
		12.1~1.4	×	×	×	×	×	×	×	
原 電	東海村 船場	10.4~11.1	×	×	×	×	×	×	×	
		11.1~12.6	×	×	×	×	×	×	×	
		12.6~1.3	×	×	×	×	×	×	×	
	日立市 留	10.4~11.1	×	×	×	×	×	×	×	
		11.1~12.6	×	×	×	×	×	×	×	
		12.6~1.3	×	×	×	×	×	×	×	

(注1) 水戸市石川について、ダストサンプラのインバータ基盤故障に伴い、12月10日22時40分から12月13日16時56分まで欠測。

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化 (mBq/m³)

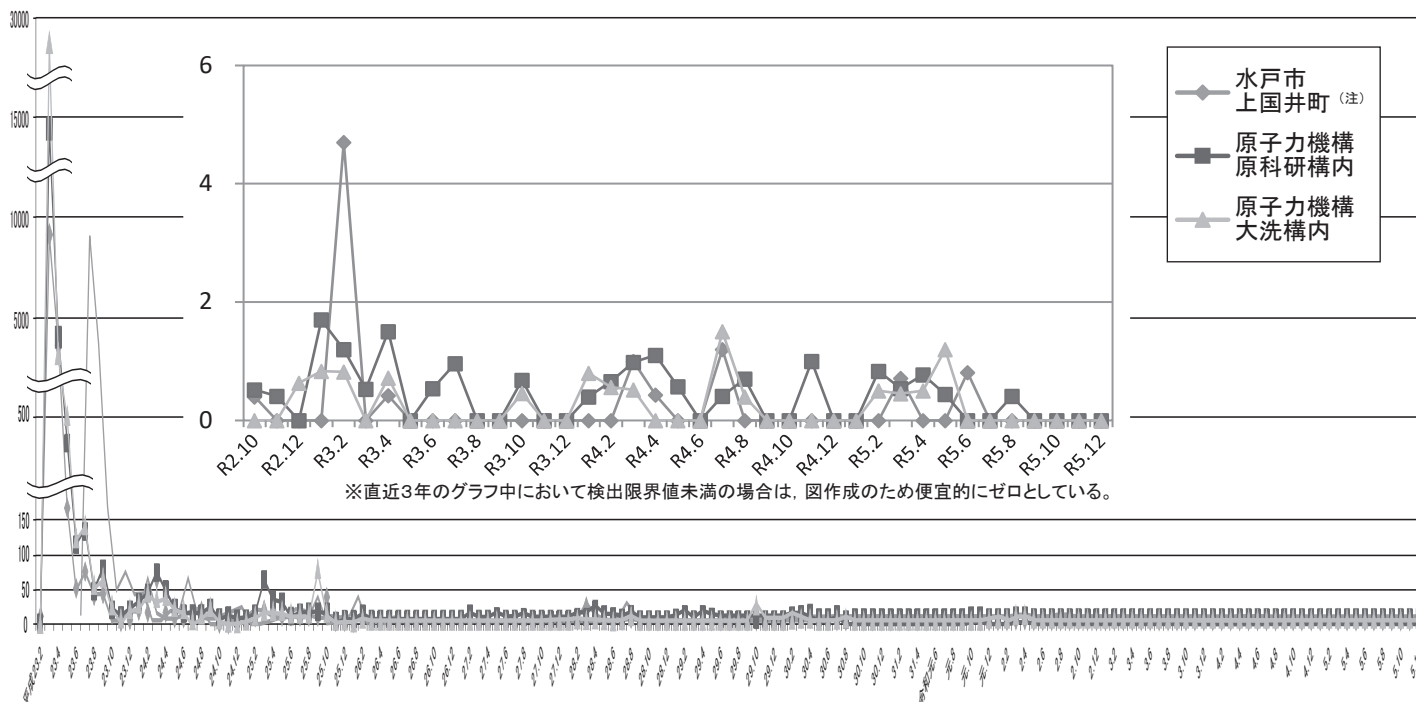


※直近3年のグラフ中において、検出限界値未満の場合は、図作成のため便宜的にゼロとしている。

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市上国井町	10. 2~11. 1	×	×	×	×	×	×	×
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×
		12. 1~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×
原子力機構 原科研	構内	10. 2~11. 1	×	×	×	×	×	×	×
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×
		12. 1~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×
原子力機構 大洗	構内	10. 2~11. 1	×	×	×	×	×	×	×
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×
		12. 1~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×

降下塵中の¹³⁷Cs経月変化 (Bq/m²)



(注) 平成25年3月26日より水戸市愛宕町から水戸市上国井町へ地点変更。
 水戸市上国井町は、採取するための大型水盤を設置している県農業研究所において、平成27年7月から平成28年2月にかけて建屋の耐震化工事が行なわれていたことに伴い、欠測。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（¹³¹I）

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	那珂市豊喰	10.11	¹³¹ I	×
	茨城町中石崎	10.12	¹³¹ I	×
	水戸市見川	10.12	¹³¹ I	×
原子力機構サイクル工研	ひたちなか市部田野	10.18	¹³¹ I	×
原子力機構大洗	銚田市舟 ^(注1) 木	10.25	¹³¹ I	×

(注1) 令和5年10月から、銚田市子生から銚田市舟木に採取地点を変更。飼料の一部に地場産のトウモロコシを使用。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果（³H）

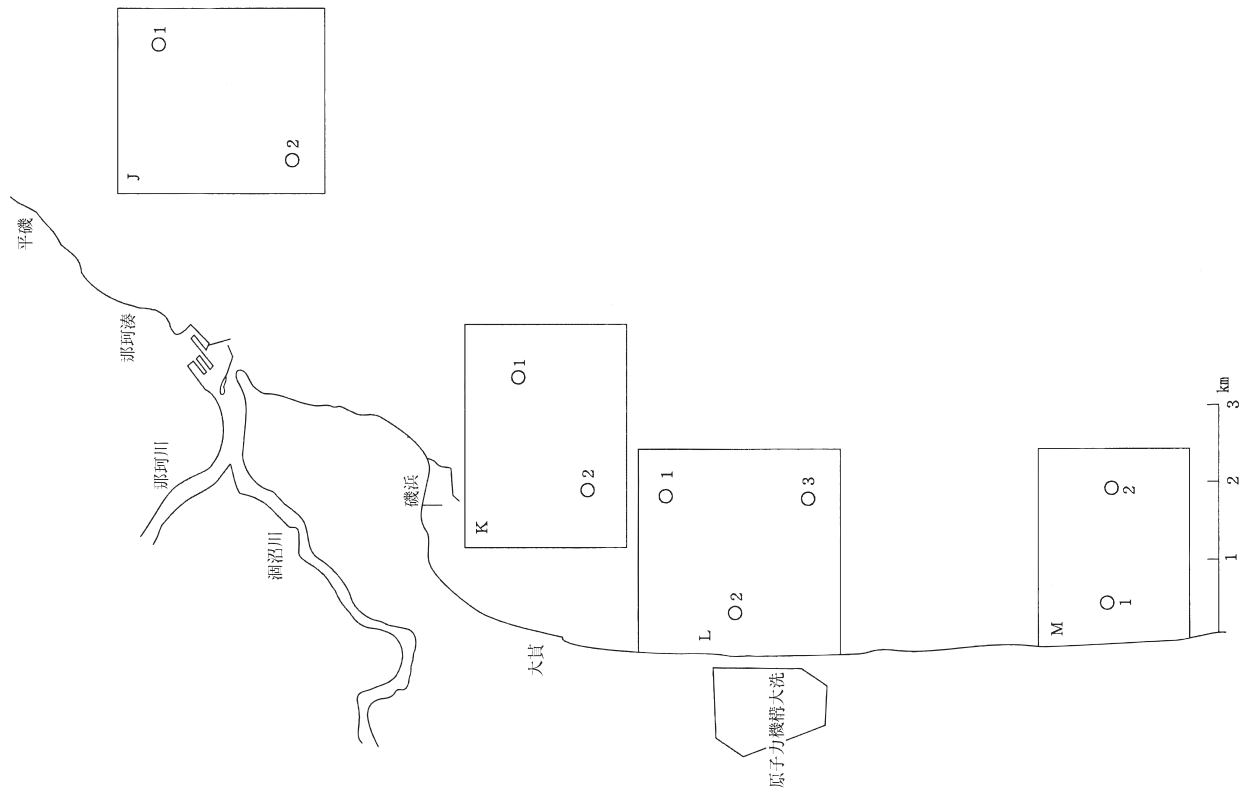
測定者	採水海域	採水月日	水温 (°C)	塩素量 (‰)	核種	分析値 (Bq/L)
県	久慈沖 (A)	10.3	24.9	18.34	³ H	×
	原子力機構サイクル工研沖 (G)	10.3	24.9	18.53	³ H	×
	阿字ヶ浦沖 (I)	10.3	24.7	18.49	³ H	×
	那珂湊沖 (J)	10.3	25.0	18.16	³ H	×
	大貫沖 (K)	10.3	24.8	17.54	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	10.19	22.8	18.20	³ H	×
^(注1) 原子力機構原科研	原子力機構原科研沖 (C)	11.2	20.7	18.46	³ H	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構サイクル工研沖 (F)	10.19	22.5	18.15	³ H	×
	長砂沖 (H)	10.19	22.2	17.68	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	10.19	22.8	18.20	³ H	×
^(注2) 原子力機構大洗	原子力機構大洗沖 (L)	11.9	20.0	16.97	³ H	×
	〃 (M)	11.9	20.1	17.15	³ H	×
原電	原電沖 (B)	10.18	20.1	15.50	³ H	×

(注) 採水海域：() 内は採水海域記号。採水地点は27ページの図を参照。
表層水を採水。

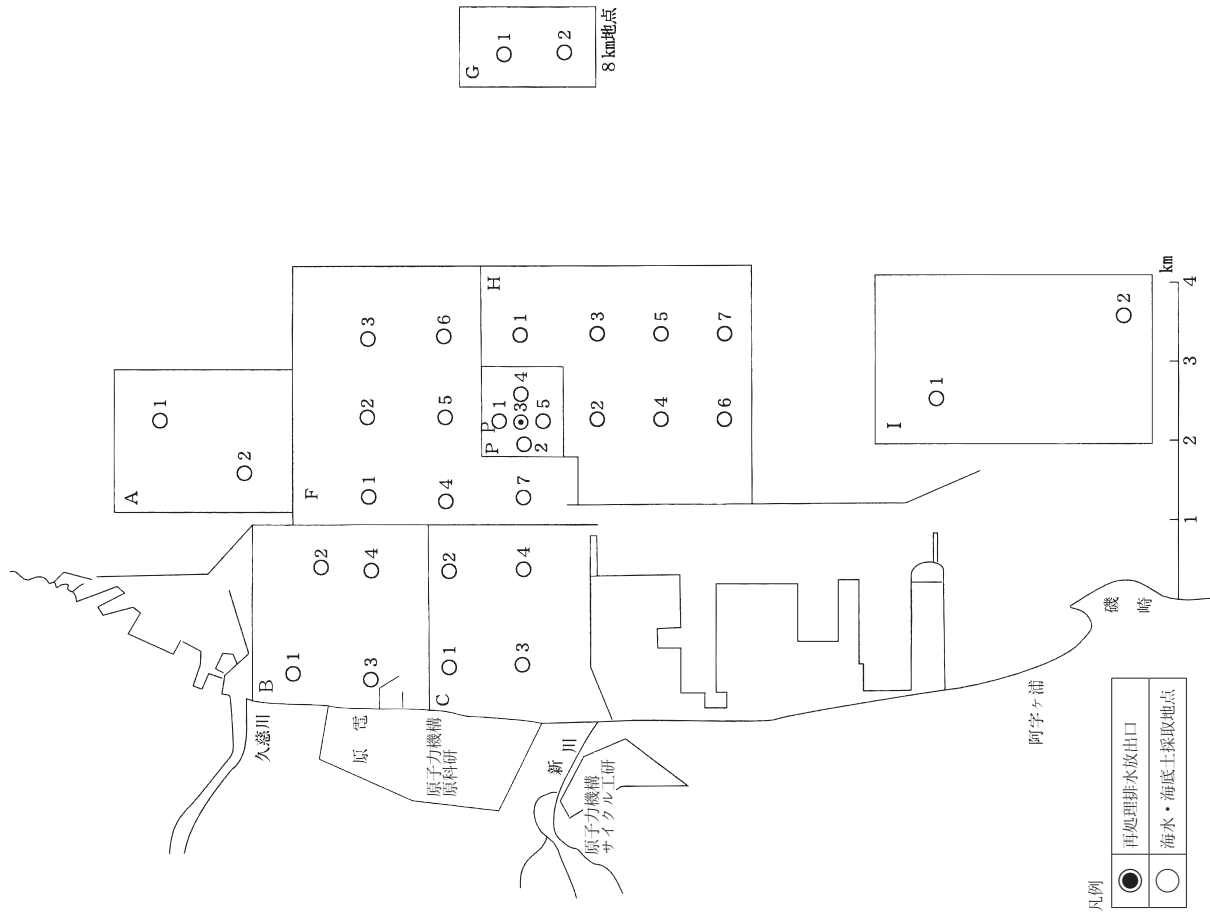
(注1) 10月期は海象不良のため、11月に採水した。

(注2) 10月期が海象不良のため、11月に採水した。

海水・海底土採取地点（大洗地区）



海水・海底土採取地点（東海地区）



2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構 サイクル工研	S T - 1	最大	67	56	52	
		平均	42	42	42	42

(注) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

2-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	10月	11月	12月	平均
原子力機構 大洗	構内 (P-8)	最大	70	64	63	
		平均	47	47	47	47

(注) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力機構 原科研	MS-1	10. 3~10.31	×	×	×	×	×	×	×	
		10.31~11.28	×	×	×	×	×	×	×	
		11.28~ 1. 4	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 サイクル工研	ST-1	9.25~10.24	×	×	×	×	×	×	×	×
		10.24~11.21	×	×	×	×	×	×	×	
		11.21~12.22	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 大	構内	10. 2~11. 1	×	×	×	×	×	0.11 [×]	×	
		11. 1~12. 1	×	×	×	×	×	×	×	
		12. 1~ 1. 4	×	×	×	×	×	0.42 [×]	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。¹³⁴Csは〔 〕に記載。

3 放出源における測定結果

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

(主要放出核種)

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構 原子科 研	J R R - 2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.8×10 ⁻⁴	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (GBq)	6.4×10 ⁻¹	5.8×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	計 1.9	Bq/cm ³
	J R R - 3	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻³	1.1×10 ⁻³	1.1×10 ⁻³		希ガス	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	8.7×10 ⁻⁴	9.0×10 ⁻⁴	7.8×10 ⁻⁴	8.5×10 ⁻⁴	[⁴¹ Ar]	
		放出量	実測分 (GBq)	5.0×10 ⁻¹	3.5×10 ⁻¹	4.6×10 ⁻¹	計 1.3	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	8.6×10	9.0×10	7.8×10	計 2.5×10 ²	Bq/cm ³
		最高濃度 (Bq/cm ³)	5.1×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁵	7.9×10 ⁻⁵		³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.1×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁵	7.9×10 ⁻⁵	6.4×10 ⁻⁵	3.5×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	5.1	6.1	7.9	計 1.9×10	~ 4.2×10 ⁻⁵
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
	N S R R	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.0×10 ⁻³	3.0×10 ⁻³	3.0×10 ⁻³		希ガス	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.2×10 ⁻⁵	2.6×10 ⁻⁵	2.4×10 ⁻⁵	3.4×10 ⁻⁵	[主に ⁴¹ Ar] ¹³⁵ Xe]	
		放出量	実測分 (GBq)	4.0×10 ⁻²	8.7×10 ⁻³	1.2×10 ⁻²	計 6.1×10 ⁻²	3.0×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	2.2	1.1	1.0	計 4.3	Bq/cm ³
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	7.2×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 5.5×10 ⁻⁸
			不検出分 (GBq)	9.7×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻⁴	7.9×10 ⁻⁵	計 3.5×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	6.3×10 ⁻³	6.3×10 ⁻³	×		希ガス	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	5.1×10 ⁻³	5.2×10 ⁻³	×	5.2×10 ⁻³	[主に ⁸⁵ Kr]	
		放出量	実測分 (GBq)	3.2×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻¹	0	計 4.7×10 ⁻¹	~ 6.1×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	2.3×10 ²	2.3×10 ²	2.4×10 ²	計 7.0×10 ²	Bq/cm ³

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
原子力機構 原子力燃料試験施設		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.2×10 ⁻⁹		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻⁹	
			不検出分 (GBq)	7.0×10 ⁻⁵	9.1×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	計 2.3×10 ⁻⁴	Bq/cm ³	
原子力機構 サイクル工研	再処理工	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻³	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
				不検出分 (GBq)	7.4×10 ²	7.2×10 ²	7.6×10 ²	計 2.2×10 ³	Bq/cm ³
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	1.0×10	1.0×10	1.4×10	計 3.4×10	Bq/cm ³	
		第一付属排気筒	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻⁵
				放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0
			不検出分 (GBq)		1.1×10	1.1×10	1.5×10	計 3.7×10	Bq/cm ³
	第一付属排気筒		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
	不検出分 (GBq)		1.0×10 ⁻²	1.0×10 ⁻²	1.4×10 ⁻²	計 3.4×10 ⁻²	Bq/cm ³		
	第一付属排気筒	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
	不検出分 (GBq)		1.0×10 ⁻²	1.0×10 ⁻²	1.4×10 ⁻²	計 3.4×10 ⁻²	Bq/cm ³		
	第一付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻³	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
				不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.6×10 ²	1.8×10 ²	計 5.1×10 ²	Bq/cm ³

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL	
				10月	11月	12月	平均		
原子力 機構 サイ クル 工 研	再 処 理	第一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	2.3	2.3	3.1	計 7.7	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	2.5	2.5	3.4	計 8.4		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	2.3×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 7.7×10 ⁻³		
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	2.3×10 ⁻³	2.3×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 7.7×10 ⁻³			
	施 設	第二 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻³	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	2.2×10 ²	2.1×10 ²	2.2×10 ²	計 6.5×10 ²	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	3.1	3.1	3.9	計 1.0×10		
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹⁴ C			
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	4.0×10 ⁻⁵			
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	3.3	3.3	4.3	計 1.1×10			

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種及びDL		
				10月	11月	12月	平均			
原子力機構 サイクル 工研	再処理施設	第二付属排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
				不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	計 1.1×10 ⁻²	Bq/cm ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
			不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²	Bq/cm ³		
	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[⁸⁵ Kr]		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	[¹³³ Xe]	
				不検出分 (GBq)	1.5×10 ²	1.5×10 ²	1.6×10 ²	計 4.6×10 ²	2.4×10 ⁻³	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁵		
放出量			実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
			不検出分 (GBq)	2.7	2.1	2.7	計 7.5	Bq/cm ³		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁸			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
			不検出分 (GBq)	2.7×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	2.7×10 ⁻³	計 7.5×10 ⁻³	Bq/cm ³		
		(注1) 原子力機構大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス	
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[主に ⁴¹ Ar]	
				放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.8×10 ⁻³
					不検出分 (GBq)	1.2×10 ²	1.0×10 ²	1.1×10 ²	計 3.3×10 ²	Bq/cm ³
H T T R		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[主に ⁸⁸ Kr]			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻³		
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ²	1.6×10 ²	1.6×10 ²	計 4.8×10 ²	Bq/cm ³		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注1) 原子力 機構 大洗	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.9×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	計 4.0×10 ⁻⁴	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.5×10 ⁻⁵	
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		不検出分 (GBq)	2.7	2.2	2.2	計 7.1		
	照射燃料 集合体 試験施設 (F M F)	最高濃度 (Bq/cm ³)					希ガス	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					〔主に ⁸⁵ Kr〕 ¹³³ Xe	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	
最高濃度 (Bq/cm ³)						¹³¹ I		
平均濃度 (Bq/cm ³)						5.6×10 ⁻¹⁰		
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
	不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0			
高速実験炉 「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	〔主に ⁴¹ Ar〕 ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻³	
		不検出分 (GBq)	1.3×10 ²	1.3×10 ²	1.3×10 ²	計 3.9×10 ²		
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.5×10 ⁻⁹		
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
	不検出分 (GBq)	1.9×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	計 5.9×10 ⁻⁴			
(注2) 量研機構 那珂	J T - 6 0 〔臨界プラズマ〕 試験装置 実験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					³ H	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					2.0×10 ⁻⁵	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種及びDL	
				10月	11月	12月	平均		
(注3) 原電	東海発電所	排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.6×10 ⁻⁹	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
				不検出分 (GBq)	1.1×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	計 4.8×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	9.0×10 ⁻⁵	1.5×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	計 3.9×10 ⁻⁴	Bq/cm ³	
		その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.8×10 ⁻⁹	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
				不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴	計 3.5×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³⁷ Cs		
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	1.7×10 ⁻⁹		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
		不検出分 (GBq)	9.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴	計 3.4×10 ⁻⁴	Bq/cm ³		
	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	{主に ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe}		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	9.8×10 ⁻⁴	
			不検出分 (GBq)	7.0×10 ²	6.2×10 ²	6.4×10 ²	計 2.0×10 ³	Bq/cm ³	
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³¹ I			
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	2.8×10 ⁻⁹			
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
	不検出分 (GBq)	2.0×10 ⁻³	1.9×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	計 5.7×10 ⁻³	Bq/cm ³			
JCO	第1管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
J C O	第2管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第3管理棟 及び 第5管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
三 菱 原 燃	転換工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	成形工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第1廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	燃料加工 試験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
積水メテロイカル	第3棟筒気	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.9×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻⁶		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微			
	第4棟筒気	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁵	2.7×10 ⁻⁵	2.3×10 ⁻⁵		³ H		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.0×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	5.4×10 ⁻²	2.1×10 ⁻²	1.2×10 ⁻²	計 8.8×10 ⁻²	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
最高濃度 (Bq/cm ³)		1.4×10 ⁻⁴	8.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁴		¹⁴ C			
平均濃度 (Bq/cm ³)		1.9×10 ⁻⁵	9.7×10 ⁻⁶	1.5×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	3.7×10 ⁻⁶			
放出量	実測分 (GBq)	5.5×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻¹	4.1×10 ⁻¹	計 1.2	Bq/cm ³			
	不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微				
ND	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	[主に ⁸⁵ Kr]		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻³	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ²	1.0×10 ²	1.1×10 ²	計 3.2×10 ²	Bq/cm ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	5.6×10 ⁻¹⁰		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³		
	C	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.4×10 ⁻¹⁰	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	6.3×10 ⁻¹⁰
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
N D C	ウラン実験棟 (U棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	9.1×10 ⁻¹¹ ~ 2.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.5×10 ⁻¹¹ ~ 4.8×10 ⁻¹¹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
東 大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					⁴¹ Ar	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					4.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0	
	ライナック棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³ N+ ¹⁵ O	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.0×10 ⁻³	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	5.8×10 ⁻²	1.1×10 ⁻²	5.2×10 ⁻²	計 1.3×10 ⁻¹	
原 燃 工	加工工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	(注4) 廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	0	微	微	計 微	
HTR燃料 製造施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
三菱マテリアル	開発試験棟Ⅰ	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	開発試験棟Ⅱ	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.0×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
日本核燃	照射後試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔 ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕 6.7×10 ⁻⁵	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	1.8	1.8	1.8	計 5.4	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.7×10 ⁻⁹	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 1.2×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	6.3×10 ⁻⁵	6.4×10 ⁻⁵	6.5×10 ⁻⁵	計 1.9×10 ⁻⁴	

(注) 平均濃度は、検出された放出量を月間排気量で除した値。

(注1) 原子力機構大洗

JMTR：10月～12月は廃止措置。

HTTR：10月～12月は定期事業者検査。

照射燃料集合体試験施設 (FMF)：10月～12月は放出を伴う運転なし。

高速実験炉「常陽」：10月～12月は定期事業者検査。

(注2) 量研機構那珂

JT-60実験棟：JT-60SAを用いた実験運転に向けて準備作業を行っているため、運転なし。

(注3) 原電

東海発電所その他排気口：使用済燃料冷却池建屋、サービス建屋等からの排気。

(注4) 原燃工

廃棄物処理棟：10月の排気はなし。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			10月	11月	12月	平均	
(注1) 原電	東海発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	7.8×10 ⁻⁶	6.0×10 ⁻⁶	3.7×10 ⁻⁶	計 1.4	³ H
		平均濃度 (Bq/cm ³)	7.3×10 ⁻⁶	5.1×10 ⁻⁶	3.0×10 ⁻⁶		6.2×10 ⁻⁷
		放出量(実測分) (GBq)	4.4×10 ⁻¹	6.2×10 ⁻¹	3.8×10 ⁻¹		Bq/cm ³
	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	3.5×10 ⁻⁷	1.8×10 ⁻⁷	計 1.3×10 ⁻¹	³ H
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	1.1×10 ⁻⁷	8.8×10 ⁻⁸		2.4×10 ⁻⁷
		放出量(実測分) (GBq)	0	7.0×10 ⁻²	6.0×10 ⁻²		Bq/cm ³

(注1) 原電

東海発電所

³H 炉内グラファイトの不純物 (⁶Li) の放射化による。平常時の月間平均濃度の過去最大値は1.4×10⁻³Bq/cm³ (平成7年9月)。

東海第二発電所

³H 冷却材中の重水素の放射化による。平常時の月間平均濃度の過去最大値は1.4×10⁻⁴Bq/cm³ (平成7年2月)。

3-1-2 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
N	材料試験棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.0×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 7.0×10 ⁻¹⁰	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10 ⁻¹¹	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 4.7×10 ⁻¹¹
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
C	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10 ⁻¹¹		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	~ 4.9×10 ⁻¹¹	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
東北大	ホットラボ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁹ Fe		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻⁹	
			不検出分 (GBq)	7.1×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	計 2.1×10 ⁻⁴	Bq/cm ³	
日揮	第2研究棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.5×10 ⁻⁹		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	計 3.2×10 ⁻⁵	Bq/cm ³	
(注1) 三菱マテリアル	開発試験 第IV棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×				⁶⁰ Co等		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×			×	1.5×10 ⁻⁹		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	微	0	0	計 微	Bq/cm ³	

3-1-2' 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名		項目	放出状況				D L
				10月	11月	12月	平均	
原子力機構 原科研	J R R - 2		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		4.9×10 ⁻¹⁰ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.4×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
	J R R - 3		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.0×10 ⁻¹¹ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³
	N S R R		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.9×10 ⁻¹⁰ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.9×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³
	燃料試験施設		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.0×10 ⁻¹¹ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	5.3×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³
原子力機構 サイクル工研	再 処 理 施 設	主 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	第 一 付 属 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
	第 二 付 属 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
原子力機構 大洗	J M T R		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.1×10 ⁻¹⁰ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	H T T R		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.2×10 ⁻¹⁰ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	照射燃料 集合体試験 施設 (FMF)		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻¹⁰ ~
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
高速実験炉 「常陽」		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.8×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				D L
			10月	11月	12月	平均	
原電	東海第二発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.3×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
電	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		5.1×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
東大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻⁷
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
NDC	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.6×10 ⁻¹¹
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³

(注1) 三菱マテリアル

開発試験第IV棟：管理区域解除に向けて令和5年10月13日をもって排気設備を撤去したため、11月以降の排気はなし。

3-1-3 排気中の全α放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
核管センター	新分析棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.2×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構原科研	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 9.8×10 ⁻¹² ~ 1.6×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構サイクル工研	プルトニウム燃料第一開発室, プルトニウム燃料第二開発室, プルトニウム燃料第三開発室, プルトニウム廃棄物処理開発施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	6.6×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵	6.6×10 ⁻⁵		計 1.9×10 ⁻⁴

3-2 排水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	排出基準
施設者	月平均濃度	法令値

(主要放出核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注1) 原子力 機構 原子 科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.2×10 ⁻³ ~ 6.6×10 ⁻³ Bq/cm ³		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微		計 微	
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻¹	2.4×10 ⁻¹	4.9×10 ⁻²	1.4×10 ⁻¹	³ H 1.2×10 ⁻¹ ~ 2.0×10 ⁻¹ Bq/cm ³		
			放出量	実測分 (MBq)	1.2×10 ⁴	1.8×10 ⁴		4.0×10 ³	計 3.4×10 ⁴
				不検出分 (MBq)	4.1×10	4.2×10		3.3×10	計 1.2×10 ²
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁷ Be 2.6×10 ⁻² ~ 3.5×10 ⁻² Bq/cm ³		
			放出量	実測分 (MBq)	0	0		0	計 0
				不検出分 (MBq)	4.5	1.6		1.2×10	計 1.8×10
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C 1.2×10 ⁻¹ ~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³		
			放出量	実測分 (MBq)	0	0		0	計 0
				不検出分 (MBq)	1.1×10 ²	1.9×10 ²		1.6×10	計 3.2×10 ²
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁶	×	×	5.4×10 ⁻⁶	²² Na 3.2×10 ⁻³ ~ 4.1×10 ⁻³ Bq/cm ³		
			放出量	実測分 (MBq)	9.2×10 ⁻²	0		0	計 9.2×10 ⁻²
				不検出分 (MBq)	微	微		1.2	計 1.2
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10 ⁻⁶	×	×	4.7×10 ⁻⁶	⁵⁴ Mn 2.6×10 ⁻³ ~ 3.2×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量	実測分 (MBq)		1.3×10 ⁻¹	0	0	計 1.3×10 ⁻¹			
	不検出分 (MBq)		微	微	1.0	計 1.0			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注1) 原子力機構原科研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	6.5×10 ⁻⁵	×	3.2×10 ⁻⁵	⁶⁰ Co 8.1×10 ⁻⁴		
		放出量	実測分 (MBq)	0	4.1×10 ⁻²	0	計 4.1×10 ⁻²	~	
			不検出分 (MBq)	2.5	4.8	4.3×10 ⁻¹	計 7.7	5.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	6.1×10 ⁻⁵	×	3.1×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 9.9×10 ⁻⁴		
		放出量	実測分 (MBq)	0	2.3×10 ⁻¹	0	計 2.3×10 ⁻¹	~	
			不検出分 (MBq)	2.6	4.3	4.2×10 ⁻¹	計 7.3	5.9×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.2×10 ⁻³		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	~	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	2.9×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	(注2) 原子力機構サイクル工研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Pu (α)	
			放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.7×10 ⁻⁵
				不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	×	×	U		
放出量			実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
(注3) 原子力機構大洗	北地区	平均濃度 (Bq/cm ³)	4.4×10 ⁻⁵	9.4×10 ⁻⁴		3.0×10 ⁻⁴	³ H		
		放出量	実測分 (MBq)	3.1	4.6×10	0	計 4.9×10	7.4×10 ⁻²	
			不検出分 (MBq)	7.1×10 ⁻¹	1.0×10	0	計 1.1×10	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.5×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.6×10 ⁻²	2.4	0	計 2.4	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×		×	¹³⁷ Cs		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.0×10 ⁻²	2.3	0	計 2.3	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注3) 原子力機構大洗	南地区	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		¹³⁷ Cs	
			放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
		不検出分 (MBq)		微	微	微	計 微	Bq/cm ³	
(注4) 量研機構那珂	貯水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					³ H		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	—	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
(注5) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)					⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	—	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		¹³⁷ Cs	
			放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	—
		不検出分 (MBq)		0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		¹⁵² Eu	
			放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	—
		不検出分 (MBq)		0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		¹⁵⁴ Eu	
			放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	—
		不検出分 (MBq)		0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
	東海第二所	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻³	1.9×10 ⁻³	1.9×10 ⁻³	1.5×10 ⁻³	³ H		
			放出量	実測分 (MBq)	7.8×10	4.7×10	7.2×10	計 2.0×10 ²	5.8×10 ⁻²
				不検出分 (MBq)	2.3×10	1.1×10	3.0×10	計 6.4×10	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
(注5) 原電	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.9×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	3.0	1.8	3.5	計 8.3	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁸ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.9×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	3.1	1.7	3.7	計 8.5	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.0×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	3.4	2.0	4.2	計 9.6	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	(3か月合成試料)				計 0	3.2×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)				計 2.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
平均濃度 (Bq/cm ³)						⁹⁰ Sr			
放出量	実測分 (MBq)	(3か月合成試料)				計 0	3.1×10 ⁻⁵		
	不検出分 (MBq)				計 3.8×10 ⁻²	Bq/cm ³			
JCO	廃水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	2.1×10 ⁻¹	3.1×10 ⁻¹	2.0×10 ⁻¹	計 7.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³			
	不検出分 (MBq)	3.1×10 ⁻¹	4.6×10 ⁻¹	3.0×10 ⁻¹	計 1.1	Bq/cm ³			
(注6) 三菱原燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	5.7×10 ⁻¹	6.8×10 ⁻¹	5.4×10 ⁻¹	計 1.8	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びDL
				10月	11月	12月	平均	
(注6) 三菱 原燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.4	1.7	1.3	計 4.4	Bq/cm ³
	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)						U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
平均濃度 (Bq/cm ³)						Th, Pa		
放出量		実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³	
		不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
(注7) N D C	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		1.5×10 ⁻⁴	7.2×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	6.2×10 ⁻³	計 6.2×10 ⁻³	6.5×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	微	0	0	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		3.2×10 ⁻⁴		4.6×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	2.5×10 ⁻²	0	1.9×10 ⁻²	計 4.4×10 ⁻²	7.5×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	⁵⁸ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.1×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	微	0	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.2×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	微	0	微	計 微	Bq/cm ³
(注8) 原燃 工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	7.3×10 ⁻²	0	7.4×10 ⁻²	計 1.5×10 ⁻¹	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
(注8) 原燃工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×		×	×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	1.8×10 ⁻¹	0	1.8×10 ⁻¹	計 3.6×10 ⁻¹	Bq/cm ³
(注9) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	6.0×10 ⁻²	0	計 6.0×10 ⁻²	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.2×10 ⁻¹	0	計 2.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³
積水メデイカル	調整槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	2.0	2.3	1.9	2.1	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	2.7×10 ³	2.7×10 ³	2.0×10 ³	計 7.4×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.0	1.2	1.0	1.1	¹⁴ C	
		放出量	実測分 (MBq)	1.4×10 ³	1.4×10 ³	1.1×10 ³	計 3.9×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率 6.5×10²倍。

第2：希釈倍率 7.1×10倍。

第3：希釈倍率 1.3×10倍。

(注2) 原子力機構サイクル工研

第2：Pu(α)及びUは月合成試料。

(注3) 原子力機構大洗

北地区：希釈倍率 1.6×10³倍。12月は排水の放出なし。

(注4) 量研機構那珂

貯水槽：10月～12月は排水の放出なし。

(注5) 原電

東海発電所：10月～12月は排水の放出なし。

東海第二発電所：希釈倍率 1.4×10²倍。

³Hは月合成試料。⁸⁹Sr, ⁹⁰Srは3か月合成試料。

(注6) 三菱原燃

排水貯槽：10月～12月は排水の放出なし。

(注7) NDC

排水貯槽：排水の放出は10月に2回、12月に1回実施。11月は排水の放出なし。

(注8) 原燃工

排水ポンド：11月は排水の放出なし。

(注9) 三菱マテリアル

排水貯槽：10月及び12月は排水の放出なし。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
県	原子力機構 原 科 研 (第 1)	濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.0×10 ⁻⁵ ~ 3.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採 水 月 日	10.2	11.1	12.4			
		濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※			
		採 水 月 日	10.17	11.16	12.15			
	"	(第 2)	濃 (Bq/cm ³) 度	2.2×10 ⁻¹	7.5×10 ⁻⁴	5.1×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻²	³ H 4.3×10 ⁻⁴ ~ 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
			採 水 月 日	10.2	11.1	12.4		
			濃 (Bq/cm ³) 度	5.6×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻³	※		
			採 水 月 日	10.17	11.16	12.15		
			濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※	※	⁷ Be 2.5×10 ⁻⁴ ~ 2.6×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
			採 水 月 日	10.2	11.1	12.4		
			濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※		
			採 水 月 日	10.17	11.16	12.15		
		濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※	※	¹⁴ C 4.6×10 ⁻³ ~ 6.6×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		採 水 月 日	10.2	11.1	12.4			
		濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※			
		採 水 月 日	10.17	11.16	12.15			
		濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※	※	²² Na 4.2×10 ⁻⁵ ~ 5.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採 水 月 日	10.2	11.1	12.4			
		濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※			
		採 水 月 日	10.17	11.16	12.15			
	濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※	※	⁵⁴ Mn 2.5×10 ⁻⁵ ~ 4.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
	採 水 月 日	10.2	11.1	12.4				
	濃 (Bq/cm ³) 度	※	※	※				
	採 水 月 日	10.17	11.16	12.15				

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			10月	11月	12月	平均			
県	原子力機構 原 科 研 (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 3.4×10 ⁻⁵ ~ 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.4				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×				
		採水月日	10.17	11.16	12.15				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs 3.2×10 ⁻⁵ ~ 5.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.4				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×				
		採水月日	10.17	11.16	12.15				
	(注1) " (第 3)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.8×10 ⁻⁵ ~ 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.25	11.22	12.13				
		濃度 (Bq/cm ³)			×				
		採水月日			12.20				
	原子力機構 サイクル工研 (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁵	U 5.7×10 ⁻⁶ ~ 7.0×10 ⁻⁶ Bq/cm ³		
		採水月日	10.20	11.10	12.1				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			×	Pu (α) 1.7×10 ⁻⁶ ~ 1.8×10 ⁻⁶ Bq/cm ³
		採水月日	10.20	11.10	12.1				
	原子力機構 大 洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴	×	×	4.4×10 ⁻⁴	³ H 4.0×10 ⁻⁴ ~ 4.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.4				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	4.7×10 ⁻⁴	×				
		採水月日	10.17	11.16	12.15				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 3.1×10 ⁻⁵ ~ 3.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	10.2	11.1	12.4				
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×				
		採水月日	10.17	11.16	12.15				
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs 2.2×10 ⁻⁵ ~ 5.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³			
採水月日		10.2	11.1	12.4					
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×					
採水月日		10.17	11.16	12.15					

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 5.8×10 ⁻⁵ ~ 7.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.3	11.16	12.15		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs 7.9×10 ⁻⁵ ~ 1.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.3	11.16	12.15		
	〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	4.4×10 ⁻⁴	³ H 3.8×10 ⁻⁴ ~ 4.4×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	4.6×10 ⁻⁴	5.4×10 ⁻⁴		
		採水月日	10.17	11.16	12.15		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn 5.8×10 ⁻⁵ ~ 8.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.16	12.15		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.3×10 ⁻⁵ ~ 8.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.16	12.15		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹³⁷ Cs 7.3×10 ⁻⁵ ~ 1.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.1	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	10.17	11.16	12.15		
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	8.7×10 ⁻⁵	8.2×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁵	7.7×10 ⁻⁵	^U 2.2×10 ⁻⁵ ~ 3.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.12	11.8	12.6		
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	4.8×10 ⁻⁴	8.4×10 ⁻⁴	5.7×10 ⁻⁴	6.3×10 ⁻⁴	^U 9.6×10 ⁻⁵ ~ 1.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	10.12	11.1	12.6		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	(注2) 原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10 ⁻⁵		7.5×10 ⁻⁵	3.3×10 ⁻⁵	U 1.2×10 ⁻⁵ ~ 2.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.6		12.7		
	(注3) NDC	濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁴		4.7×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	⁶⁰ Co 3.3×10 ⁻⁵ ~ 3.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.3		12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×		×	×	⁵⁸ Co 3.3×10 ⁻⁵ ~ 5.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.3		12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁴		8.1×10 ⁻⁵	9.0×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 3.9×10 ⁻⁵ ~ 5.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	10.3		12.4		
	積水 メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	2.3	2.1	2.0	2.1	³ H 1.9×10 ⁻² ~ 2.5×10 ⁻² Bq/cm ³
		採水月日	10.2	11.2	12.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	1.5	2.0	2.7		
		採水月日	10.17	11.16	12.18	7.1×10 ⁻¹	¹⁴ C 1.3×10 ⁻² ~ 1.9×10 ⁻² Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	6.7×10 ⁻¹	7.9×10 ⁻¹	8.2×10 ⁻¹		
		採水月日	10.2	11.2	12.4		
濃度 (Bq/cm ³)		6.3×10 ⁻¹	6.9×10 ⁻¹	6.3×10 ⁻¹			
採水月日		10.17	11.16	12.18			

(注1) 原子力機構原科研(第3):10月2回目及び11月2回目の排水の放出なし。

(注2) 原燃工:11月の排水の放出なし。

(注3) NDC:11月の排水の放出なし。

3-2-1" 排水中の放射性核種分析結果

(その他検出された核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構 原科研	(注1) 第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	(3か月合成試料)				1.8×10 ⁻⁷	⁹⁰ Sr 6.1×10 ⁻⁵
		放出量(実測分) (MBq)					計 4.2×10 ⁻²	
	(注2) 第3	平均濃度 (Bq/cm ³)			7.2×10 ⁻²		³ H 1.6×10 ⁻¹	
		放出量(実測分) (MBq)			8.6	計 8.6		Bq/cm ³

(注1) 第2: 希釈倍率 7.1×10倍

⁹⁰Sr: 放射性廃棄物処理施設における放射性廃棄物の処理作業によるものの影響。

(注2) 第3: 希釈倍率 1.3×10倍

³H: 核融合炉物理中性子源施設の排水系統に残留しているものの影響。

参考) 排液中又は排水中の濃度限度

核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示(平成27年8月31日原子力規制委員会告示第8号)

核種	濃度限度 ^(注1) (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)
³ H	6×10 ^(注2)	⁸⁷ Y	2	¹³⁴ Cs	6×10 ⁻²
⁷ Be	3×10	⁸⁹ Sr	3×10 ⁻¹	¹³⁷ Cs	9×10 ⁻²
¹⁴ C	2	⁹⁰ Sr	3×10 ⁻²	¹⁴⁴ Ce	2×10 ⁻¹
²² Na	3×10 ⁻¹	⁹⁵ Zr	9×10 ⁻¹	¹⁵² Eu	6×10 ⁻¹
³⁵ S	1	⁹⁵ Nb	1	¹⁵⁴ Eu	4×10 ⁻¹
³⁶ Cl	9×10 ⁻¹	^{99m} Tc	4×10	¹⁹² Ir	6×10 ⁻¹
⁵¹ Cr	2×10	¹⁰³ Ru	1	²³² Th	4×10 ⁻³
⁵⁴ Mn	1	¹⁰⁶ Ru	1×10 ⁻¹	²³⁴ Th	2×10 ⁻¹
⁵⁷ Co	4	^{110m} Ag	3×10 ⁻¹	U	2×10 ⁻²
⁵⁸ Co	1	¹²² Sb	5×10 ⁻¹	²³⁷ Np	9×10 ⁻³
⁵⁹ Fe	4×10 ⁻¹	¹²⁹ I	9×10 ⁻³	²³⁹ Pu	4×10 ⁻³
⁶⁰ Co	2×10 ⁻¹	¹³¹ I	4×10 ⁻²	²⁴¹ Am	5×10 ⁻³

(注1) 濃度限度は3か月平均濃度であり,³H以外の核種はその核種において最も低い値である。

(注2) 水としての濃度限度。有機物(メタンを除く)としての濃度限度は2×10Bq/cm³。

3-2-2 排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	月最高濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³
	月平均濃度	4×10^{-3} Bq/cm ³
県	測定毎濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構原科研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.8×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.3×10^{-5} Bq/cm ³	
	第2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 1.8×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.4×10^{-5} Bq/cm ³	
	第3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.0×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.2×10^{-5} Bq/cm ³	
(注1) サ原子力機構工研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.3×10^{-6}	×	4.5×10^{-6}		U 1.8×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.1×10^{-6}	×	4.2×10^{-6}	3.3×10^{-6}		
		放出量	実測分 (MBq)	3.9×10^{-2}	0	3.5×10^{-2}		計 7.4×10^{-2}
			不検出分 (MBq)	0	3.1×10^{-2}	1.2×10^{-2}		計 4.3×10^{-2}
大原子力機構洗構	北地区	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
(注2) 量研機構珂	貯水槽	最高濃度 (Bq/cm ³)					全β	
		平均濃度 (Bq/cm ³)					— Bq/cm ³	
メ積ディカル水	調整槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		全β	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.0×10^{-4} Bq/cm ³	

(注1) 原子力機構サイクル工研：希釈倍率 5.9×10 倍。連続採取による合成試料。

(注2) 量研機構珂：10月から12月は排水の放出なし。

3-2-2' 排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原子力機構原科研 (第 1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	10.2	11.1	12.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
		採水月日	10.17	11.16	12.15	
	" (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	10.2	11.1	12.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
		採水月日	10.17	11.16	12.15	
	" (注1) (第 3)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	10.25	11.22	12.13	
		濃度 (Bq/cm ³)			×	
		採水月日			12.20	
	原子力機構サイクル工研 (第 1)	濃度 (Bq/cm ³)	4.6×10 ⁻⁴	5.5×10 ⁻⁴	5.4×10 ⁻⁴	5.2×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	4.6×10 ⁻⁴	5.1×10 ⁻⁴	6.1×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.17	11.16	12.15	
	" (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	10.20	11.10	12.1	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	×	2.3×10 ⁻⁴	×	2.1×10 ⁻⁴
		採水月日	10.2	11.1	12.4	
濃度 (Bq/cm ³)		×	2.1×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴		
採水月日		10.17	11.16	12.15		
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	3.2×10 ⁻⁴	8.1×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴	4.0×10 ⁻⁴	
	採水月日	10.12	11.1	12.6		
	濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁴	4.0×10 ⁻⁴	3.5×10 ⁻⁴		
	採水月日	10.19	11.16	12.14		

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原燃工 (注2)	濃度 (Bq/cm ³)	5.0×10 ⁻⁴		4.4×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴
		採水月日	10.6		12.7	
		濃度 (Bq/cm ³)	3.5×10 ⁻⁴		4.0×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.19		12.26	
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴	3.3×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴
		採水月日	10.12	11.8	12.6	
		濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	×	2.6×10 ⁻⁴	
		採水月日	10.25	11.22	12.15	
	NDC (注3)	濃度 (Bq/cm ³)	5.0×10 ⁻⁴		6.2×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻⁴
		採水月日	10.3		12.4	
	積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	8.8×10 ⁻⁴	2.9×10 ⁻³	7.8×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻³
		採水月日	10.2	11.2	12.4	
濃度 (Bq/cm ³)		4.6×10 ⁻⁴	3.5×10 ⁻⁴	9.4×10 ⁻⁴		
採水月日		10.17	11.16	12.18		

(注1) 原子力機構原科研(第3): 10月2回目及び11月2回目の排水の放出なし。

(注2) 原燃工: 11月の排水の放出なし。

(注3) NDC: 11月の排水の放出なし。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	3か月放出量	保安規定に定める3か月当たりの最大放出量
県	測定毎濃度	保安規定に定める最大放出濃度

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構 サイクル 工研	再処理施設	平均濃度 (Bq/cm ³)		8.5	4.2	6.1	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	0	9.9×10 ³	1.8×10 ³	計 1.2×10 ⁴	3.7
			不検出分 (MBq)	0	2.6×10	4.3×10 ³	計 4.3×10 ³	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.6	3.2	計 5.8	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁰ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	1.6	計 2.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.9	3.6	計 6.5	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	2.6	計 4.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰³ Ru	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	1.6	計 2.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru- ¹⁰⁶ Rh	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	3.7×10	4.7×10	計 8.4×10	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			10月	11月	12月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理工設	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹²⁹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.6	2.0	計 3.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	2.6	計 4.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	1.6	計 2.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	2.6	計 4.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴¹ Ce	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.6	3.2	計 5.8	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce— ¹⁴⁴ Pr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	2.6×10	3.2×10	計 5.8×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	Pu(α)	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.7×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	0	4.3×10 ⁻²	5.4×10 ⁻²	計 9.7×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注) ⁸⁹Sr, ⁹⁰Sr, ¹²⁹I及びPu(α)は月合成試料。10月の排水の放出なし。

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原子力機構サイクル工研(再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		4.4	3.1	3.0	³ H 1.6×10 ⁻² ~ 5.6×10 ⁻² Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		9.8	6.1×10 ⁻¹		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr 1.5×10 ⁻⁴ ~ 2.6×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb 9.5×10 ⁻⁵ ~ 2.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru 6.1×10 ⁻⁴ ~ 7.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I 9.2×10 ⁻⁴ ~ 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs 8.4×10 ⁻⁵ ~ 1.4×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
県	原子力機構サイクル工研(再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		3.9×10 ⁻⁴	3.1×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 6.9×10 ⁻⁵ ~ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		3.0×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce 4.3×10 ⁻⁴ ~ 5.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		11.15	12.25		
		濃度 (Bq/cm ³)		1.9×10 ⁻⁵	3.0×10 ⁻⁵	2.7×10 ⁻⁵	Pu(α) 8.1×10 ⁻⁶ ~ 1.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日		11.8	12.20		
		濃度 (Bq/cm ³)		3.0×10 ⁻⁵	8.3×10 ⁻⁵		
		採水月日		11.15	12.25		

(注) 10月の排水の放出なし。

参 考 法 令 値

核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示（平成27年8月31日原子力規制委員会告示第8号）第8条第2～4項（再処理施設に適用）

海洋放出に起因する線量限度は3か月につき250マイクロシーベルトとする に基づき、原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定では、次表のとおり放出の基準を定めている。

〔なお、本基準の「1年間の最大放出量」で放射性液体廃棄物を海洋へ放出した場合の実効線量は、年間約5.4マイクロシーベルトに相当する。また、「3か月当たりの最大放出量」は、「1年間の最大放出量」の4分の1に当たる。「最大放出濃度」及び「1日当たりの最大放出量」は、これらを守るための日常の運転管理に係る基準である。〕

区 分	最大放出濃度 (Bq/cm ³)	1日当たりの 最大放出量 (GBq)	3か月当たりの 最大放出量 (GBq)	1年間の 最大放出量 (GBq)
全α放射能	3.0×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1	4.1
全β放射能 (³ Hを除く)	1.2×10	3.7	2.4×10^2	9.6×10^2
⁸⁹ Sr	2.3×10^{-1} (注1)	7.0×10^{-2} (注2)	4.1	1.6×10
⁹⁰ Sr	4.8×10^{-1} (注1)	1.4×10^{-1} (注2)	8.1	3.2×10
⁹⁵ Zr— ⁹⁵ Nb	5.9×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.0×10	4.1×10
¹⁰³ Ru	9.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}	1.6×10	6.4×10
¹⁰⁶ Ru— ¹⁰⁶ Rh	7.4	2.1	1.3×10^2	5.1×10^2
¹³⁴ Cs	8.5×10^{-1}	2.5×10^{-1}	1.5×10	6.0×10
¹³⁷ Cs	7.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	1.4×10	5.5×10
¹⁴¹ Ce	8.1×10^{-2}	2.4×10^{-2}	1.5	5.9
¹⁴⁴ Ce— ¹⁴⁴ Pr	1.7	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
³ H	2.5×10^4	7.4×10^3	4.7×10^5	1.9×10^6
¹²⁹ I	3.7×10^{-1} (注1)	1.1×10^{-1} (注2)	6.7	2.7×10
¹³¹ I	1.6	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
Pu (α)	3.0×10^{-2} (注1)	1.1×10^{-2} (注2)	5.9×10^{-1}	2.3

(注1) 1か月平均1日最大放出濃度

(注2) 1か月平均1日最大放出量

3-2-4 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	再処理排水に係わる低減化目標値
施設者	月最高濃度	10Bq/cm ³
	月平均濃度	4Bq/cm ³
県	測定毎濃度	10Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL
			10月	11月	12月	平均	
原子力機構サイクル工研	再処理施設	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×		2.2×10 ⁻² Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
		不検出分 (MBq)	0	2.6×10	3.2×10	計 5.8×10	

3-2-4' 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			10月	11月	12月	平均
県	原子力機構サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
		採水月日		11.8	12.20	
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	
		採水月日		11.15	12.25	

(注) 10月の排水の放出なし。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

測定者	排水溝	項目		放出状況			
				10月	11月	12月	平均
県	原子力機構 原科 研 (第 2)	降 雨 時	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻¹	7.9×10 ⁻²	6.9×10 ⁻²	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降 雨 時 以 外	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	(注1) 原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	排 水 時 間 全 期	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)		×	×	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)		×	×	×
	原子力機構 大 洗 (北 地 区)	降 雨 時	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降 雨 時 以 外	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原 電 (東海第二)	降 雨 時	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻²	×	×	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
降 雨 時 以 外		最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	

(注1) 原子力機構サイクル工研：10月は排水の放出なし。

参考 1 原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果

1. 調査目的

再処理施設低レベル廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するため、放出口を中心とした一定海域について海水の放射性物質濃度の調査を行う。

2. 調査方法

放出口周辺、東西 3 km、南北10kmの海域において表層30地点で採水し、全 β 放射能（30地点）、トリチウム（30地点）、 ^{137}Cs （7地点）について分析する。

本調査は、原則として毎月上旬に定期的実施する他、排水中の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えた場合に実施する。

3. 調査結果

当期の調査は、10月17日、11月22日及び12月18日に実施した。

その結果、上記海域の海水中放射性物質濃度の平均値は、全 β 放射能について $0.043\text{Bq}/\text{L}$ 、トリチウムについて検出限界値（ $40\text{Bq}/\text{L}$ ）未満、 ^{137}Cs について検出限界値（ $0.004\text{Bq}/\text{L}$ ）未満であった。なお、放出排水の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えることはなかった。

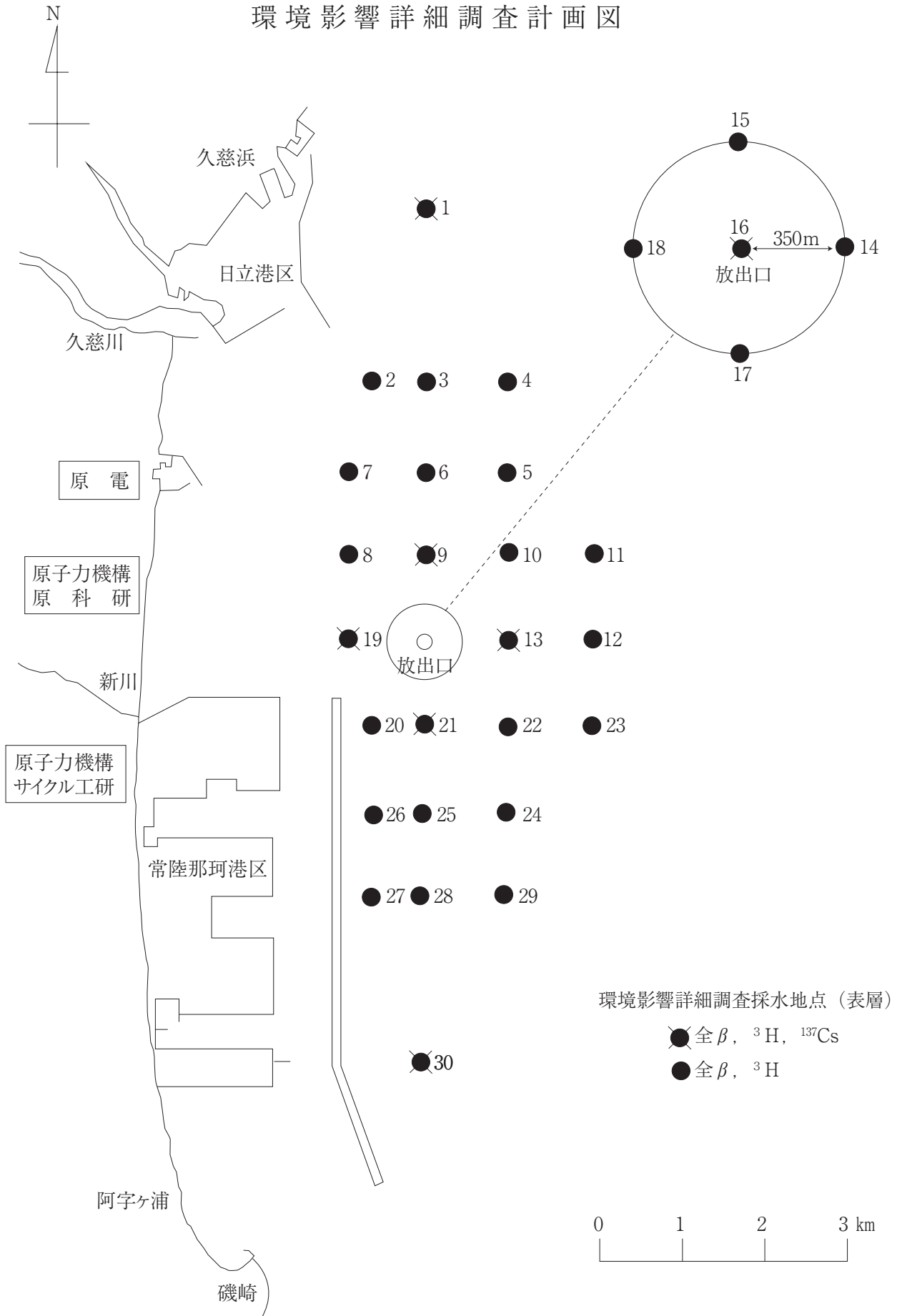
採水地点別濃度 (3か月平均値)

採水地点	全β放射能	トリチウム	¹³⁷ Cs
	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
1	0.044	×	×
2	0.040	×	
3	0.040	×	
4	0.044	×	
5	0.043	×	
6	0.042	×	
7	0.041	×	
8	0.043	×	
9	0.041	×	×
10	0.043	×	
11	0.044	×	
12	0.044	×	
13	0.045	×	×
19	×	×	×
20	0.046	×	
21	0.041	×	×
22	0.045	×	
23	0.045	×	
24	0.046	×	
25	0.044	×	
26	0.046	×	
27	0.043	×	
28	0.043	×	
29	0.044	×	
30	0.046	×	×
放出点	0.043	×	×

(注1) 検出限界値：全β放射能 0.04 Bq/L
 トリチウム 40 Bq/L
¹³⁷Cs 0.004 Bq/L

(注2) 放出点：全β放射能、トリチウムは放出口周辺5地点(14~18)の平均値、
¹³⁷Csは放出口1地点(16)の値

環境影響詳細調査計画図



参考2 主要施設運転状況

事業所名	施設名	10月	11月	12月
(注1) 原子力機構 原科研	J R R - 2	残存施設の維持管理		
	J R R - 3	9/25~10/20 []	10/30 []	11/24 12/4 12/22 []
(注2) 原子力機構 サイクル工研	再処理施設	廃止措置		
		定期事業者検査		
(注3) 原子力機構 大洗	J M T R	廃止措置		
	H T T R	定期事業者検査		
	高速実験炉 「常陽」	定期事業者検査		
(注4) 原電	東海発電所	廃止措置		
	東海第二発電所	第25回定期事業者検査		

(注1) 原子力機構原科研

J R R - 2 : 平成8年12月19日に共同利用運転を終了し解体工事に着手。原子炉本体を密封するとともに周辺機器の撤去を終了し、平成16年4月より残存施設の維持管理中。

J R R - 3 : 施設供用運転(最大熱出力20MW) 9月25日~10月20日, 10月30日~11月24日, 12月4日~12月22日
反応度測定のための運転(最大熱出力10kW) 10月26日, 12月1日, 12月27日

(注2) 原子力機構サイクル工研

再処理施設: 平成30年6月13日 廃止措置着手

令和5年10月27日 定期事業者検査開始

(注3) 原子力機構大洗

J M T R : 令和3年9月1日から廃止措置中

H T T R : 定期事業者検査(令和5年5月30日~令和6年3月27日(予定))

高速実験炉「常陽」: 定期事業者検査(令和2年4月1日~未定)

(注4) 原電

東海発電所: 平成10年3月31日 発電(運転)停止

平成13年12月4日 廃止措置着手

東海第二発電所: 平成23年5月21日 第25回定期事業者検査開始

再処理施設処理状況（せん断処理について記載）

処理期間	対象発電所名	炉型式 (PWR, BWR又はATR)	処理量 (T)	平均燃焼度 (MWD/T)	冷却日数 (年)
計					

別表1 環境試料の核種濃度検出限界

項目	単位	³ H	¹⁴ C	²² Na	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³¹ I	¹³⁷ Cs [¹³⁹ Cs]	¹⁴⁴ Ce	¹⁵² Eu	¹⁵⁴ Eu	U	Pu
塵埃	mBq / m ³				0.1		0.1		0.15	0.1	1		0.1 [0.1]	1				0.00015
降下塵	Bq / m ²				0.4		0.4	0.15	0.7	0.4	4		0.4 [0.4]	4				
牛乳	Bq / L							0.04				0.2	0.4 [0.4]					
野菜	Bq/kg・生							0.04				0.4	0.4 [0.4]					
精米	Bq/kg・生		2					0.04					0.4 [0.4]					
陸土	Bq/kg・乾				1		1				10		1 [1]	10				
陸水	Bq / L	20			0.008		0.008				0.02		0.004 [0.004]	0.02			0.1	
海水	Bq / L	20			0.008		0.008	0.004	0.04	0.02	0.02		0.004 [0.004]	0.02				
海底土	Bq/kg・乾			1	1	1	1	0.4	2	0.9	6		0.4 [0.4]	6	5	3		0.04
海産物	Bq/kg・生				0.2		0.2	0.04	0.4	0.2	0.8		0.2 [0.2]	0.8				0.002
排水口 近辺土 砂	Bq/kg・乾			1	1	1	1	0.2					1 [1]		5	3	20	0.04

別表2 排水中の全 β ・全 γ 検出限界

(1) 全 β 検出限界

測定項目	区分	単位	検出限界	備考
排水	淡水	Bq/cm ³	2 × 10 ⁻²	再処理
			2 × 10 ⁻⁴	その他

(2) 全 γ 検出限界

排水溝名	単位	検出限界
原子力機構原科研(第2)	Bq/cm ³	2 × 10 ⁻²
原子力機構サイクル工研(再処理)		2 × 10 ⁻¹
原子力機構大洗		6 × 10 ⁻²
原電(東海第二)		1 × 10 ⁻²

別表3 排気の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名		核種等	算出方法
原子力機構原科研	J	R R - 2	^3H	$Q \times DL$
	J	R R - 3	希ガス	〃
			^3H	〃
	N	S R R	希ガス	〃
			^{131}I	〃
	燃料試験施設		希ガス	〃
^{131}I			〃	
燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)		Pu	〃	
原子力機構 サイクル工研	プルトニウム燃料第一，第二 第三開発施設，プルトニウム 廃棄物処理開発施設		α (Pu)	〃
	再 処 理 施 設	主排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
		第一付属排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
	第二付属排気筒	^{85}Kr	〃	
		^3H	〃	
		^{14}C	〃	
		^{131}I	〃	
		^{129}I	〃	
	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)		希ガス	〃
			^3H	〃
			^{131}I	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構大洗	J M T R	希ガス	$Q \times DL$
	H T T R	希ガス	〃
		^{131}I	〃
		3H	〃
	照射燃料集合体試験施設 (FMF)	希ガス	Q (ピンパンクチャー時) $\times DL$
		^{131}I	$Q \times DL$
	高速実験炉「常陽」	希ガス	〃
^{131}I		〃	
量研機構那珂	J T - 6 0 実験棟	3H	(中性子発生量)
原 電	東 海 発 電 所	^{60}Co	$Q \times DL$
		^{137}Cs	〃
	東 海 第 二 発 電 所	希ガス	〃
		^{131}I	〃
J C O	第 1 管 理 棟	U	〃
	第 2 管 理 棟	〃	〃
	第 3 管 理 棟 及 び 第 5 管 理 棟	〃	〃
三 菱 原 燃	転 換 工 場	〃	〃
	成 形 工 場	〃	〃
	第 1 廃 棄 物 処 理 所	〃	〃
	第 2 廃 棄 物 処 理 所	〃	〃
	燃 料 加 工 試 験 棟	〃	〃
N D C	照 射 後 試 験 棟	希ガス	〃
		^{131}I	〃
	化 学 分 析 棟	〃	〃
		β	〃
	ウ ラ ン 棟	U	〃
	燃 料 試 験 棟	〃	〃
材 料 試 験 棟	β	〃	
積水メディカル	第 3 棟 排 気 棟	3H	Q (開放系での取扱い時間における排気量) $\times DL +$ (実験動物投与放射エネルギー) \times (呼吸中排泄割合)
		^{14}C	
	第 4 棟 排 気 棟	3H	
		^{14}C	

事業所名	施設名	核種等	算出方法
東大	原子炉棟	希ガス	(積算出力) × (放出割合)
	ライナック棟	$^{13}\text{N}+^{15}\text{O}$	〃
東北大	ホットラボ棟	β	$Q \times DL$
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	〃
核管センター	新分析棟	α (Pu,U)	〃
原燃工	加工工場	U	〃
	廃棄物処理棟	〃	〃
	HTR燃料製造施設	〃	〃
日揮	第2研究棟	β	〃
三菱マテリアル	開発試験第I棟	U	〃
	開発試験第II棟	〃	〃
	開発試験第IV棟	β	〃

注) Q：測定箇所における排気量

DL：検出限界

別表4 排水の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構原科研	第 1	^{60}Co	$Q \times D L$
	第 2	^3H	〃
		^7Be	〃
		^{14}C	〃
		^{22}Na	〃
		^{54}Mn	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
第 3	^{60}Co	〃	
原子力機構 サイクル工研	第 1	全 β	〃
	第 2	Pu	〃
		U	〃
	再処理施設	^3H	〃
		^{89}Sr	〃
		^{90}Sr	〃
		^{95}Zr	〃
		^{95}Nb	〃
		^{103}Ru	〃
		$^{106}\text{Ru} - ^{106}\text{Rh}$	〃
		^{129}I	〃
		^{131}I	〃
		^{134}Cs	〃
		^{137}Cs	〃
		$^{144}\text{Ce} - ^{144}\text{Pr}$	〃
	^{141}Ce	〃	
Pu	〃		
全 β	〃		
原子力機構大洗	北 地 区	^3H	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
	南 地 区	^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
量研機構那珂	貯 水 槽	^3H	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原電	東海発電所	⁶⁰ Co	Q×DL
		¹³⁷ Cs	〃
		¹⁵² Eu	〃
		¹⁵⁴ Eu	〃
	東海第二発電所	³ H	〃
		⁵⁴ Mn	〃
		⁵⁸ Co	〃
		⁶⁰ Co	〃
		⁸⁹ Sr	〃
		⁹⁰ Sr	〃
JCO	廃水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
三菱原燃	排水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
	排水貯槽 (燃料加工試験棟)	U	〃
		Th, Pa	〃
NDC	排水貯槽	⁵⁸ Co	〃
		⁶⁰ Co	〃
		¹³⁷ Cs	〃
		U	〃
原燃工	排水ポンド	U	〃
		Th, Pa	〃
三菱マテリアル	排水貯槽	U	〃
		Th, Pa	〃
積水メディカル	調整槽	³ H	〃
		¹⁴ C	〃

(注) Q：測定箇所における排水量

DL：検出限界

<用語・記号等の解説>

1 ※

測定データの全てが検出限界未満の濃度

2 -

欠測値

3 休止施設等

排気・排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は、最高濃度、平均濃度の欄は空欄（“ ”）に、放出量は“0”（ゼロ）。

4 /（スラント）

(1) 測定対象外

(2) 「その他検出された核種」が検出されない月及び3か月平均濃度

5 測定結果の表記法

測定結果は原則として2桁とする。

放出源情報の測定結果は、原則として1位及び少数1位の2数字と10のべき数とする。

6 最高濃度（最大，最高値）

(1) 連続測定の場合

ア 空間線量（MS，MP）

「最大」は1時間値の最高値

イ 排気（希ガス等）

1日値（24時間平均値）の最高濃度

ウ 排水（全 γ ）

1時間値の最高濃度

(2) 連続採取，定期的測定の場合

排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値の最高濃度

7 平均濃度（平均）

(1) 連続測定の場合

ア 空間線量（MS，MP）

1時間値の単純平均値

イ 排気（希ガス等）

月平均値は1日値（24時間平均値）に排気量で重みを付けた加重平均値

ウ 排水（全 γ ）

1時間値の単純月間平均値

(2) 連続採取，定期的な測定の場合

排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値に排気，排水量で重みを付けた加重平均値

(3) バッチ測定の場合

排水（核種分析）の月平均値は測定値に排水量で重みを付けた加重平均値

- (4) 測定値の一部に検出限界未満がある場合、推定濃度（ある根拠によって推定した値又は検出限界値，ただし、排水（全 γ ）は“0”）排気，排水量で重みを付けた加重平均値
- (5) 排気，排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は，最高濃度，平均濃度の欄は空欄（“ ”）に，放出量は“0”（ゼロ）。

8 3か月平均濃度（平均）

- (1) 放出源情報については3か月加重平均値とし（施設者に限る），その他については単純平均した値。
- (2) 検出限界未満“*”は推定濃度又は検出限界（環境項目）として平均。ただし，希釈効果がある場合は，希釈効果を考慮した値として平均し，希釈倍率を記載。

また，3か月すべてが“*”の場合には3か月平均値も“*”

- (3) 排気・排水が1か月間放出が全くないときは，この月も値は0として計算。
- (4) 3か月のうち1か月でも欠測値“-”があった場合には平均値を求めず。

9 放出量

- (1) 放出量は測定された量（実測分）と検出限界未満で推定した量（不検出分）に分けて記載。

(2) 不検出分

測定した値が検出限界未満の場合には「推定濃度」（ある根拠によって推定した値又は検出限界値）と排気・排出量より求めた値

- (3) “微”：不検出分として求めた値が次に定める場合

項 目	核 種 等	微と表示する限度
排気・排水	全 β ，Pu	0.004MBq/月未満
	上記以外	0.04MBq/月未満

(4) 放出量の3か月総計

- ① 月毎の放出量の和を実測分，不検出分別に記載
- ② 不検出分に“微”がある場合，“微”は加算しない。ただし，3か月全てが“微”又は“微”と0のみ場合は“微”。

10 放射性核種分析

排気・排水又は環境試料中に含まれる放射性核種の種類と量（濃度）を調べること。

本報告では，ゲルマニウム半導体検出器を用いた機器分析によってセシウム-137・ヨウ素-131などを，放射化学分析によってストロンチウム-90・プルトニウムを，液体シンチレーション測定装置を用いた分析によってトリチウム・炭素-14などをそれぞれ測定している。

11 主要放出核種

原子力施設から放出される放射性核種は，施設の種類・使用方法によって決まるので，その核種を把握しておけば放出の概略や異常の有無が判断できるとされる放出量が多い核種。

12 その他検出された核種

主要放出核種以外の検出された核種（検出された場合は報告することになっている）。

放出源における測定結果の記載については次のとおり。

- (1) 検出された月のみ記載。検出されない月又は3か月平均濃度は“/”（スラント）を記載。
- (2) 測定値の一部に検出限界未満がある場合の平均濃度は、不検出分を0とした加重平均値。

13 検出限界（DL）

排気，排水の測定箇所における検出限界。

なお，最高濃度及び平均濃度はいずれも放出口における濃度に換算しているため，これらの値を下回る場合もある。

14 ne

測定結果が全て検出限界未満のため，線量評価せず。

15 平常の変動幅

- (1) 主 旨……平常時におけるモニタリングによって得られたデータは種々の要因で変動するが，その変動の幅を用いて，調査検討を要するデータを客観的に見出す。
- (2) 算出方法……過去のデータをもとにバックグラウンド放射能（自然放射能及び過去の核実験等によるもの）の平均値に標準偏差の3倍値（ 3σ ）を加減して上限と下限を定める。なお，過去のデータが少なく，このような統計処理が適当でない場合は，最大値と最小値をもって上下限とする。
MP，MSの空間線量率については，同様に東海，大洗地区ごとに，平常の変動幅の上限を統計的に求めた後，評価の分かりやすさなどの点から，統一的に100nGy/時としている。
- (3) 調査検討を要するデータの選択と措置……平常の変動幅の上限を超えたものについて，試料採取，処理，分析，測定等原因の詳細な調査検討を行う。
- (4) 見直し……放射能の平常レベルは経年的に変動が見られるので，平常の変動幅は原則5年ごとに見直す。

表 平常の変動幅（上限）

種 目	測 定 者	単 位	平常の変動幅	備 考	
空間線量	モニタリングステーション	県施設者	nGy/時	100	宇宙線成分除く
	モニタリングポスト	施設者	nGy/時	100	宇宙線成分除く NaI検出器
	積算線量	県施設者	mGy/6月	平均値+標準偏差の3倍	宇宙線成分及び積算線量計の自己汚染の寄与を除く
環境試料 (降下塵，土壌等)	県施設者	Bq/L等	最大値	—	

<本報告書の解説>

環境放射線の監視の目的は、東海・大洗地区にある原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保するため、原子力事業所の平常稼動時において、

(1) 周辺公衆の線量を推定評価し、線量限度を十分に下回っているかどうかを確認する。

(線量推定評価)

(2) 環境における放射線と放射性物質の水準及び分布の長期的変動を把握する。

(長期的変動調査)

(3) 放射性物質の予期しない放出による環境への影響を早期に把握する。

(短期的変動調査)

ことを目的とし、「茨城県環境放射線監視計画」により、測定地点・頻度・測定者等が定められている。(表1参照)

なお、本計画は施設の増設や国のモニタリング指針等の改正に伴い、適宜見直しを行っている。

この監視計画に基づき県及び各原子力事業所が測定した結果を取りまとめたものが、本報告書である。

以下に、各測定項目の解説を示す。

I 短期的変動調査（3か月毎）

1 環境における測定結果

原子力施設の敷地外での測定結果を示す。(なお、敷地内であっても周辺監視区域境界は「環境における測定結果」として取り扱う。以下同様。)

1-1 空間 γ 線量率測定結果

1-1-1 モニタリングステーション

固定放射線観測局で24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

※ 放射線測定装置と気象観測装置等が設置されているのがモニタリングステーション、放射線測定装置のみがモニタリングポスト。

1-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

集塵器で吸引した大気中の塵埃中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤に降下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果

乳牛から採乳した原乳中の ^{131}I の分析結果を示す。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果

海水に含まれる ^3H の分析結果を示す。

2 敷地内における測定結果

原子力施設の敷地内での測定結果を示す。以下同様。

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

2-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

吸塵器で吸引した大気中の塵埃に付着した放射性物質の核種分析結果を示す。

3 放出源における測定結果

原子力事業所の各施設から放出される排気・排水についての測定結果を示す。

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の主な施設から放出される排気中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-1-1[〃] 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-1-2 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-2[〃] 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の主要施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-3 排気中の全 α 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 α 測定結果を示す。

3-2 排 水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-2-1[〃] 排水中の放射性核種分析結果

県が測定した原子力事業所の主な排水溝から放出される排水中の核種分析結果を示す。

3-2-1^{〃〃} 排水中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-2-2 排水中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の全 β 測定結果を示す。

3-2-2[〃] 排水中の全 β 放射能測定結果

県が測定した主な排水溝から放出される排水中の全 β 放射能測定結果を示す。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定で定められている核種についての核種分析結果を示す。

3-2-4 再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果

原子力機構サイクル工研再処理排水の全 β 測定結果を示す。

3-2-4' 再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果

県が測定した原子力機構サイクル工研再処理排水の全 β 測定結果を示す。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

県が連続測定した主要排水溝の排水中の全ガンマ測定結果を示す。

II 長期的変動調査結果（6か月毎）

1 環境における測定結果

1-1 空間 γ 線量測定結果

1-1-1 サーベイ結果

定点で定期的に測定した線量率の測定結果を示す。

1-1-2 積算線量測定結果

3か月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果

船で一定期間曳航した漁網のガンマ及びベータの測定結果を示す。

1-3 大気中放射能測定結果

1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤中に落下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果

畑土等の土壌に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果

河川の底土に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果

海岸砂に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果

河川水や湖沼水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果

水道水や井戸水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果

海水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果

海底土に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水口近辺の土砂中に含まれる主要放出核種の測定結果を示す。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果

3か月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

Ⅲ 線量の推定結果（1年間）

1 放出源情報に基づく実効線量

1-1 放射性気体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等4事業所における主要施設から放出される年間の総排気量から外部被ばく実効線量並びに内部被ばく預託実効線量を示す。

1-2 放射性液体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等5事業所における主要排水溝から放出される年間の総排水量から内部被ばくによる預託実効線量並びに外部被ばくによる実効線量を示す。

2 積算線量による外部被ばく実効線量

1年間の各地点の積算線量値を地域毎に区分し、年間の外部被ばく実効線量を示す。

3 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量

牛乳・葉菜・米・魚介類等の核種分析結果から、成人の預託実効線量を示す。

表1 調査目的別測定項目及び頻度

測定項目	測定頻度	対象核種等
1. 線量評価		
積算線量	年4回	空間 γ
原乳	年2回	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体
葉菜	〃	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体〈収穫時：ハウレン草, ハクサイ, キャベツ〉
精米	年1回	^{90}Sr , ^{14}C (一部), γ 放射体
飲料水	年2回	^3H
魚類	2種年2回	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：シラス及びヒラメ, カレイ, イシモチ, チダイ, スズキ〉
貝類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：アワビ, ハマグリ, コタマ貝, 赤貝, ウバ貝〉
海藻類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：ヒジキ, ワカメ, アラメ〉
排気	連続	主要放出核種 (施設者)
排水	放出の都度	主要放出核種 (施設者)
2. 短期的変動調査		
空間線量率(サーベイ)	連続	空間 γ
空間線量率(ポスト)	〃	空間 γ
塵埃	連続・年4回	Pu (一部施設者), γ 放射体
降下塵	毎月	γ 放射体
原乳	年4回	^{131}I
海水	〃	^3H , 〈水温, 塩素量〉
排気	連続	放出核種, 全 β , 全 α (施設者)
排水	連続	全 γ
	放出の都度	放出核種, 全 β (施設者)
	毎月	放出核種, 全 β (県)
3. 長期的変動調査		
空間線量率(サーベイ)	年2回	空間 γ
積算線量	年4回	空間 γ
降下塵	毎月	γ 放射体
土壌	年2回	γ 放射体
河底土	〃	γ 放射体 (施設者)
海岸砂	〃	γ 放射体
河川水	〃	^3H , γ 放射体
湖沼水	〃	^3H , γ 放射体 (施設者)
飲料水	〃	γ 放射体, U
海水	〃	^{90}Sr , γ 放射体
海底土	〃	^{90}Sr , γ 放射体, Pu (一部)
排水口近辺土砂	〃	主要放出核種
漁網	〃	β 線, γ 線 〈共にサーベイメーター表示〉 (施設者)

- ※1. γ 放射体： ^{54}Mn , ^{60}Co , ^{95}Zr , ^{95}Nb , ^{106}Ru , ^{137}Cs , ^{144}Ce 等
 2. 海底土中の Pu 測定は、河口及び一部排水口付近の海域のみ。
 3. Pu ： $^{239,240}\text{Pu}$
 4. 対象核種等欄の()：分担を示し、表示なしは県、施設者による。

事務局：茨城県防災・危機管理部

原子力安全対策課

〒310-8555 水戸市笠原町978番6

電話 029-301-2916

FAX 029-301-6002

